

フ ァ イ ル 44

土居 南国城

土 井 晚 翠

峠 三 吉

東 野 辺 薫

東 宮 七 男

通りゃんせ

戸 川 幸 夫

土 岐 善 麿

徳 川 夢 聲

徳 田 秋 聲

徳富蘆花・愛子

土居南國城句碑

所在地 山口県下関市阿弥陀寺町四一 赤間神宮境内

後夜の月

よもよもし帝の

声もかゆ

南國城

碑陰

維秋 昭和五十年十月十八日
土居南國城先生句碑建設委員会

下関西高等学校同窓会
下関南高等学校同窓会
俳句関係者有志

所在地 山口県柳井市柳井上田五二 大師山金剛寺境内

よりかゝる

冬木の息か

わか息か

南國城

碑陰

土居南國城先生 顕彰会

昭和四十六総 辛亥秋

略歴

土居南國城 本名 光頼 明治三十二年九月三日 愛媛県宇和島市に生まれる 京大英文科卒業 昭和五十五年十二月六日歿す 享年八十二歳 墓は山口県下関市中
央霊園にある



土居南國城句碑

所在地 山口県柳井市柳井上田 3492 大師山金剛寺境内

よりかゝる

冬木の息か

わか息か

南國城

碑陰

土居南國城先生 顕彰会
昭和四十六稔 辛亥秋

所在地 山口県下関市阿弥陀寺 4-1 赤間神宮境内

後夜の月

よよと帝の

声きかゆ

南國城

碑陰

維秋 昭和五十年十月十八日
土居南國城先生句碑建設委員会
下関市^市高等学校同窓会
下関南高等学校同窓会
俳句関係者有志

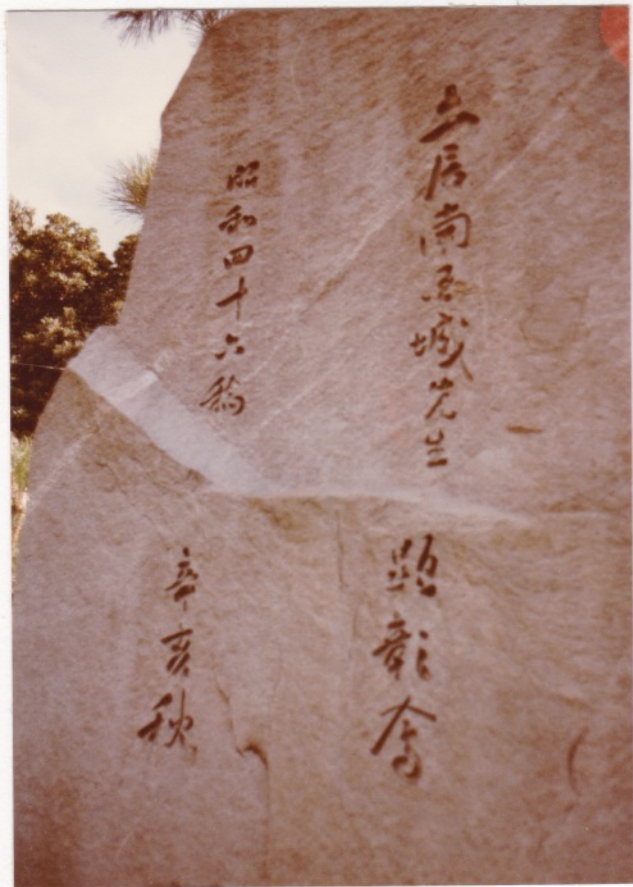
略歴

土居南國城 本名 光頼 明治 31 年 9 月 3 日 愛媛県宇和島市に生れる 京大
英文科卒業 昭和 55 年 11 月 18 日歿す 享年 82 歳 墓は山口県下関市 中央
霊園にある



土

会導導 主求無國南原土



大京 心外全二市島中無國雙 日
央中 市關不期口山均登 第28 半第



橋の花
←

土井晩翠記念碑 (旧制弘前高校校歌)

所在地 青森県弘前市文京区一番地 弘前大学構内 正門内

虚空に羽ばたき

南を圖る

弘前高等学校開校四十周年記念

龍山義亮書

碑陰

昭和三十五年五月建

弘前高等学校同窓会

略歴

土井晩翠 本名 林吉 明治四年十月二十三日 仙台市北鍛冶町に生まれる 東大英文科卒業 昭和二十七年十月十九日歿す 享年 後四日で六十二歳 法名 詩實 院殿希翁晩翠清居士 墓は仙台市若林区新寺四十七六 大林寺境内にある



土井晩翠記念碑（旧制弘前高校校歌）

所在地 青森県弘前市文京区一番地 弘前大学構内 正門内

虚 空 に 羽 ば た き
南 を 圖 る

弘前高等學校開校四十周年記念
龍 山 義 亮 書

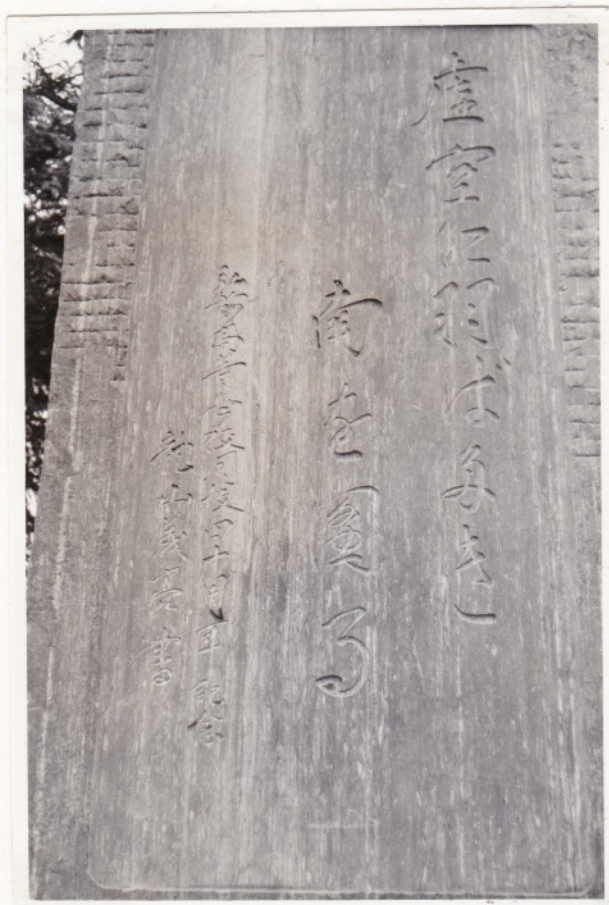
碑陰

昭和三十五年五月建

弘前高等学校同窓会

略歴

土井晩翠 本名 林吉 明治4年10月23日 宮城県仙台市鍛冶町に生まる
東大英文科卒業 昭和27年10月19日歿す 享年 後四日で81歳 法名
詩寶院殿希翁晩翠清居士 墓は仙台市若林区新寺町4-7-6 大林寺境内にある



土井晩翠詩碑

所在地 岩手県二戸市福岡町 城の外 九戸城址 本丸跡

春 高樓の
花の宴
めぐる盃
影さして
千代の松が枝
わけいでし
昔の光
今いづこ
秋陣營の
霜の色
鳴き行く雁の
數見せて
植ゐるづるぎに
照りそひし
むかしの光
いま何處
晩翠

碑陰

昭和十八年の秋土井晩翠先生
みちのくの林檎園を見まほしとて
当地に杖をひかれし際余の案内にて
この古城に登る願望低徊うたゝ感に
堪えざりしもの、如く宿に帰るや直に
筆を呵と書かれたるは名吟荒城の月
の節に碑面の詩は即ちそれなり
友人故北城木村喜一郎君この城下に
和田果汁研究所を営みて功を収む
嘗て余に記念碑を建てんことを約せ
果さず息啓一郎君その遺志を継ぎ
茲に先生の直筆を石に刻して永く
伝えんとすよつて由来を録すと云爾

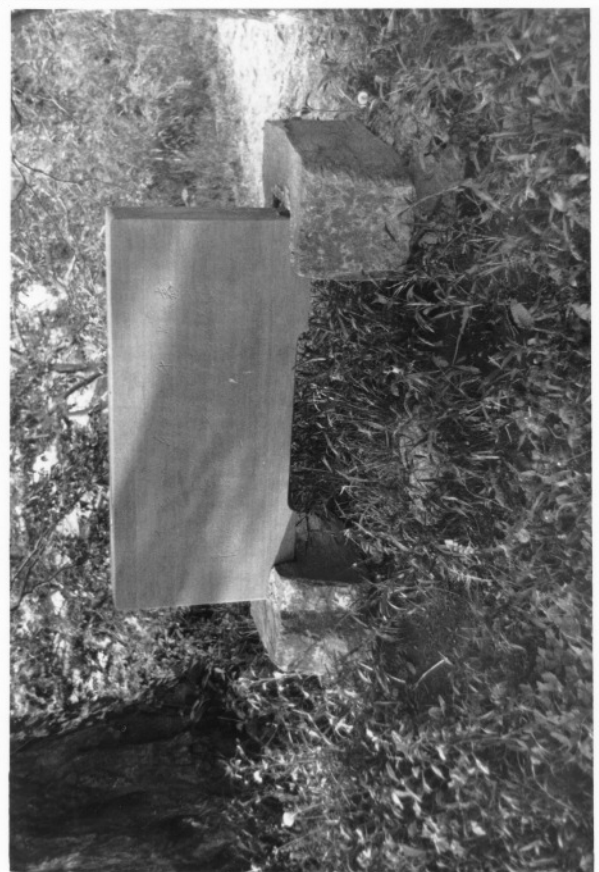
昭和三十四年四月十日

皇太子殿下御成婚の吉日

小保内如奏識

因に此の詩は四聯よりなり後二節は
この古城の姿をよく歌えるに似たり

いま荒城のよはの月変わらぬ光たがためぞ
天上に残るはたゞかづら松に歌ふはたゞあらし
写さんとてか今もなほあゝ荒城の夜半の月



土井晩翠詩碑

所在地 岩手県二戸市福岡町 城の外 九戸城址 本丸跡

春 高 樓 の
花 の 宴
め ぐ る 盃
影 さ し て
千 代 の 松 が 枝
わ け い で し
昔 の 光
今 い づ こ
秋 陣 營 の
霜 の 色
鳴 き 行 く 雁 の
数 見 せ て
植 う る つ る ぎ に
照 り そ ひ し
む か し の 光
い ま 何 處
晩 翠

碑陰

昭和十八年の秋土井晩翠先生
みちのくの林檎園を見まほしとて
当地に杖をひかれし際余の案内にて
この古城に登る願望低徊うたゝ感に
堪えざりしものゝ如く宿に帰るや直ちに
筆を呵して書かれたるは名吟荒城の月
の前二節にして碑面の詩は即ちそれなり
友人故北城木村喜一郎君この城下に
十和田果汁研究所を営みて功を収む
嘗て余に記念碑を建てんことを約して
果さず息啓一郎君その遺志を継ぎ
茲に先生の直筆を石に刻して永く
伝えんとすよって由来を録すと云爾

昭和三十四年四月十日

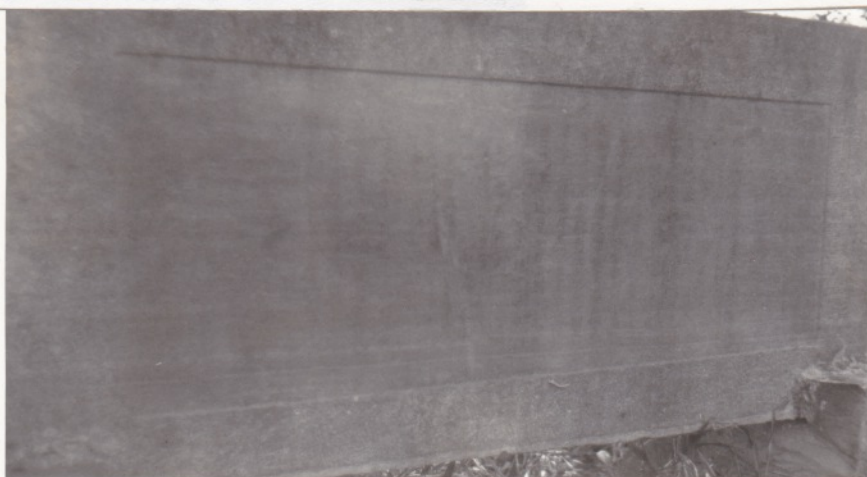
皇太子殿下御成婚の吉日

小保内如葵識

因に此の詩は四聯よりなり後二節は
この古城の姿をよく歌えるに似たり
即ち

いま荒城のよはの月 変らぬ光たがためぞ
垣に残るはたゞかづら 松に歌ふはたゞあらし
天上影は変らねど 榮枯は移る世の姿
写さんとてか今もなほ あゝ荒城の夜半の月





土井晩翠歌碑

所在地 岩手県陸前高田市広田町広田崎 「椿島べしなせ」下の遊歩道脇

千萬の鴈とふなり白波の

昭和十七年

五月二十二日

寄せて碎くるあらいその

青松島に於て

上

晩翠

碑陰

昭和十七年五月二十二日 土井晩翠 高田町に
来られし折来島されこの地一帯を遊覧される
奇岩に碎ける荒波とうみねこの乱舞にいたく
心をひかれこの風光を称賛してやまざりし由
ここに染筆の色紙より写して

一碑を建て永く記念の印とす

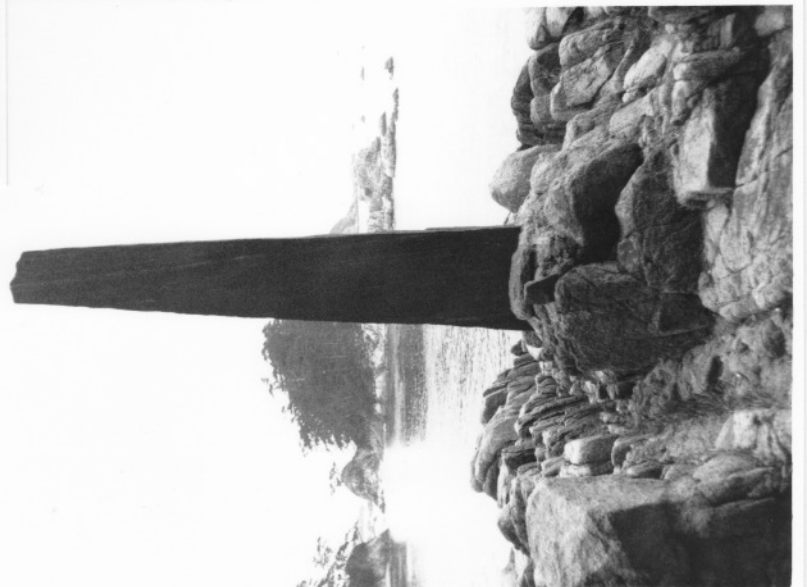
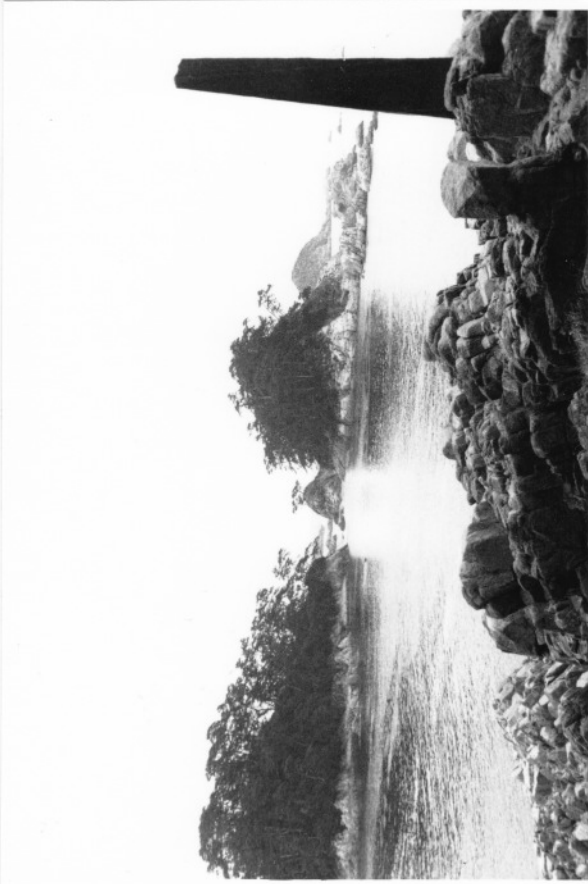
昭和十九年五月二十日

陸前高田市

建設協力者 佐々木大三郎

津田 勇

石工 村上 試平



土井晩翠歌碑

所在地 岩手県陸前高田市広田町広田崎 「椿島パークホテル」下の遊歩道脇

千萬の鷗とぶなり白波の 昭和十七年

寄せて碎くるあらいその 五月二十二日

上 青松島に於て

晩 翠

碑陰

昭和十七年五月二十二日 土井晩翠 高田町に
来られし折来島されこの地一帯を遊覧される
奇岩に碎ける荒波とうみねこの乱舞にいたく
心をひかれこの風光を称賛してやまざりし由

ここに染筆の色紙より写して

一碑を建て永く記念の印とす

昭和三十九年五月二十二日

陸 前 高 田 市

建設協力者 佐々木大三郎

津 田 勇

石 工 村 上 試 平

青松島の景色 ↓



← 晩翠歌碑

土共列翠燈軒



翠燈の歌碑
←

土井晩翠詩碑

所在地 宮城県仙台市青葉区 青葉城址 本丸跡

荒城の月

春高樓の花の宴

めぐる丕皿影さして

千代の松が枝わけいでし

むかしの光今いづこ

秋陣營の霜の色

鳴きゆく雁の數見せて

植うるつるぎに照りそひし

昔のひかりいま何處

今荒城の夜半の月

変らぬ光たがためぞ

垣に残るはたゞかづら

松に歌ふは唯あらし

天上影は変らなど

栄枯は移る世のすがた

寫さんとしてか今もなほ

ああ荒城の夜半の月

晩 翠

碑陰

昭和二十七年六月
晩 翠 会



土井晩翠詩碑

所在地 宮城県仙台市青葉区青葉山 仙台城址 本丸跡

荒城の月

春高樓の花の宴
めぐる盃影さして
千代の松が枝わけいでし
むかしの光今いづこ

秋陣營の霜の色
鳴きゆく雁の數見せて
植うるつるぎに照りそひし
昔のひかりいま何處

今荒城の夜半の月
変らぬ光たがためぞ
垣に残るはたゞかづら
松に歌ふは唯あらし

天上影は変らねど
榮枯は移る世のすがた
寫さんとてか今もなほ
ああ荒城の夜半の月
晩 翠



碑陰（横書き）

昭和二十七年六月

晩 翠 会



土井晩翠

晩翠は本名を林吉といひ明治四年（一八七一年）仙台市北郷町の舞商土井七郎兵衛の長男として生まれた。明治十一年、増根小学校（今の本町小学校）に入り、のち立町小学校（現校、仙台英語学校、旧制第一高等学校を経て明治三十三年東京帝国大学英文科を卒業、明治三十三年母校二高の教授として帰仙した。その間、三十一年に不朽の名作「荒城の月」を作詩発表、続いて第一詩集「天地有情」を処女出版した。黒崎藤村の「若菜集」にあくわると三年の明治三十二年、晩翠の二十八才から二十九才にかけての頃であった。のち六つの詩集や数多くの随筆など出版した。

昭和二十二年日本芸術院会員、二十四年仙台市名誉市民に推され翌二十五年、文化勲章を受賞され昭和二十七年十月十九日、仙台市本郷町の晩翠草堂で情熱の詩人としての八十一年の生涯を閉じられた。

この碑は昭和二十七年、晩翠会等により建てられたものである。

春城の花の葉　あへて散れぬ
千代の松が枝がけいで　わがいのたまに
秋風の響の由　響をゆく風の足跡は
響をゆく風の足跡は　はなの光にまじり
いそぎの夜の月　響の光にまじり
月に響をゆく風の　月に響をゆく風の
天上の星の光　米村はるの由の響
向うの山をなす　あるべき星の光

法人 仙台市観光協会

土井晩翠記念碑

所在地 宮城県仙台市青葉区 青葉城址 本丸跡

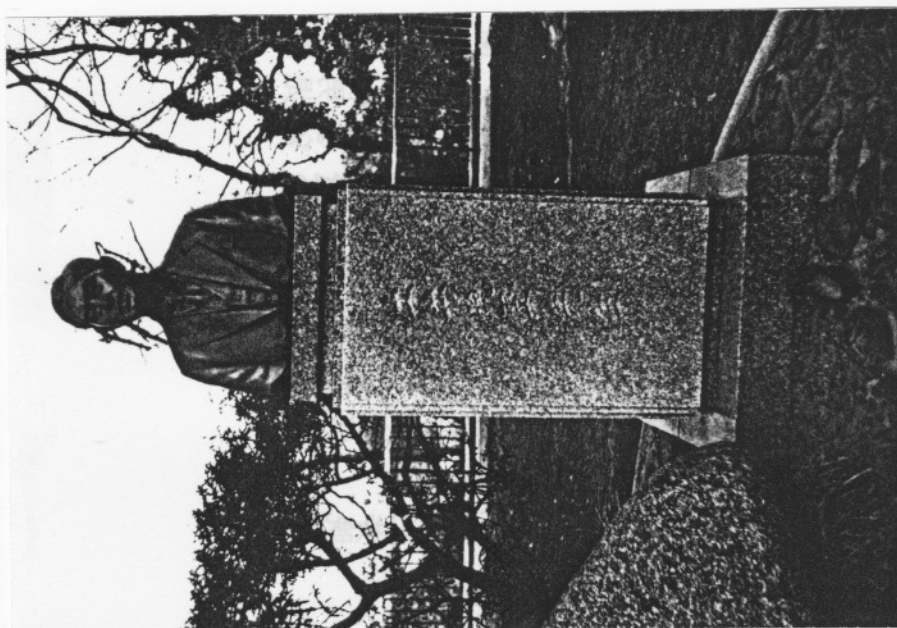
土井晩翠

の 胸 像

胸像の裏面

正

土井晩翠先生



台座右側面

Lions
マーク

ライオンズクラブ国際協会302E-H地区
第22回地区年次大会記念
1976年5月9日

土井 晩 翠 記 念 碑

所在地 宮城県仙台市青葉区 青葉山 仙台城址 本丸跡

土 井 晩 翠

土 井 晩 翠 先 生

の 胸 像

胸像の裏面
正

台座右側面（横書き）

Lions

マーク

ライオンズクラブ国際協会 302E-H 地区

第 22 回地区年次大会記念

1976 年 5 月 9 日

所在地 宮城県仙台市青葉区大町 1-2-2 晩翠草堂前

※ 情 有 地 天 （横書き）

※のところに縦書きで次の文字あり

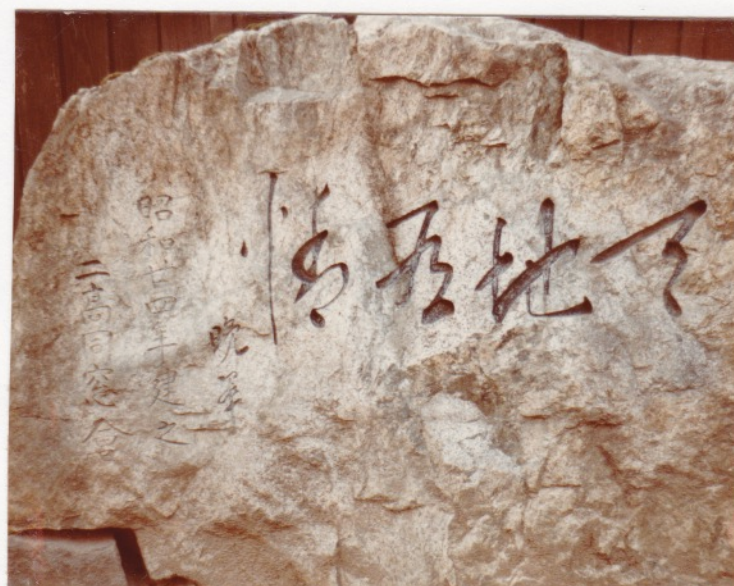
晩翠

昭和廿四年建之

二高同窓會

碑陰

文字なし



土井晩翠詩碑

所在地 宮城県仙台市青葉区霊屋下二三五 瑞鳳寺境内

佛に
姿か花の
不明

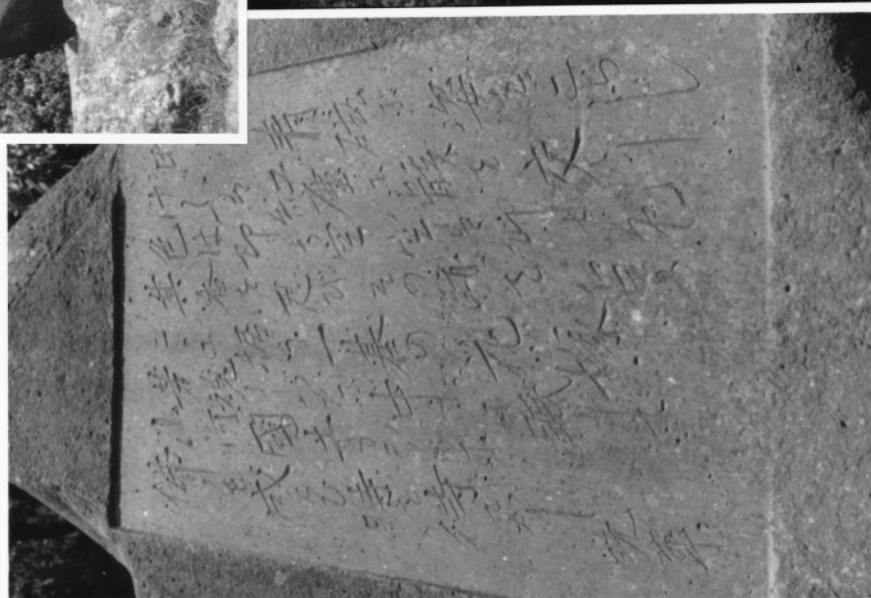
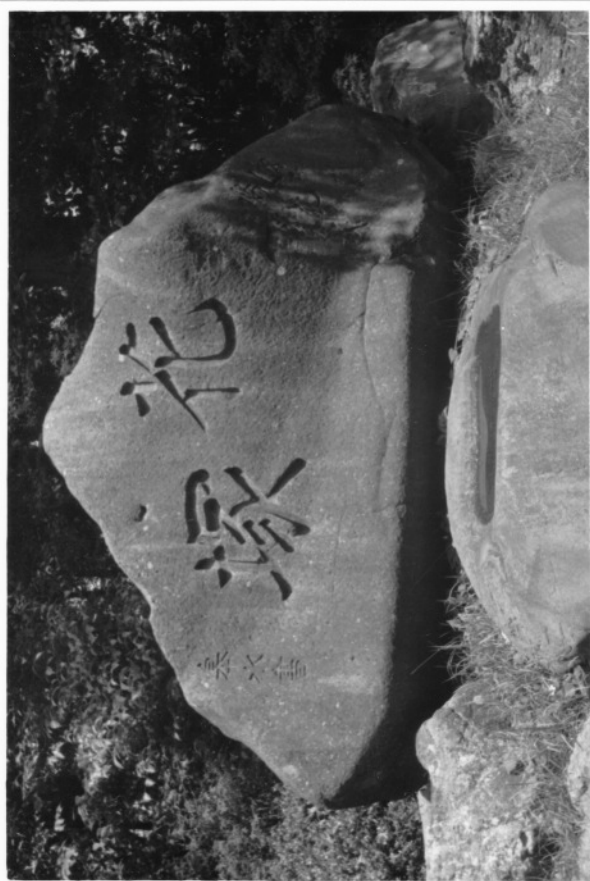
花

塚

皋水書

左側面

昨日は青磁に姿をこらし
けふは紅塵に骸を交う
色は即ち空 空は即ち色
其香を忍びその跡を留め
こゝに据う一基の花塚
芳魂しづかに中に眠りて
山河國土もろともに
佛と成らむ時を待てかし
晩翠



土井晩翠詩碑

所在地 宮城県仙台市青葉区霊屋下 23-5 瑞鳳寺境内

佛に
姿か花の
(不明)

花

塚

皋水書

左側面

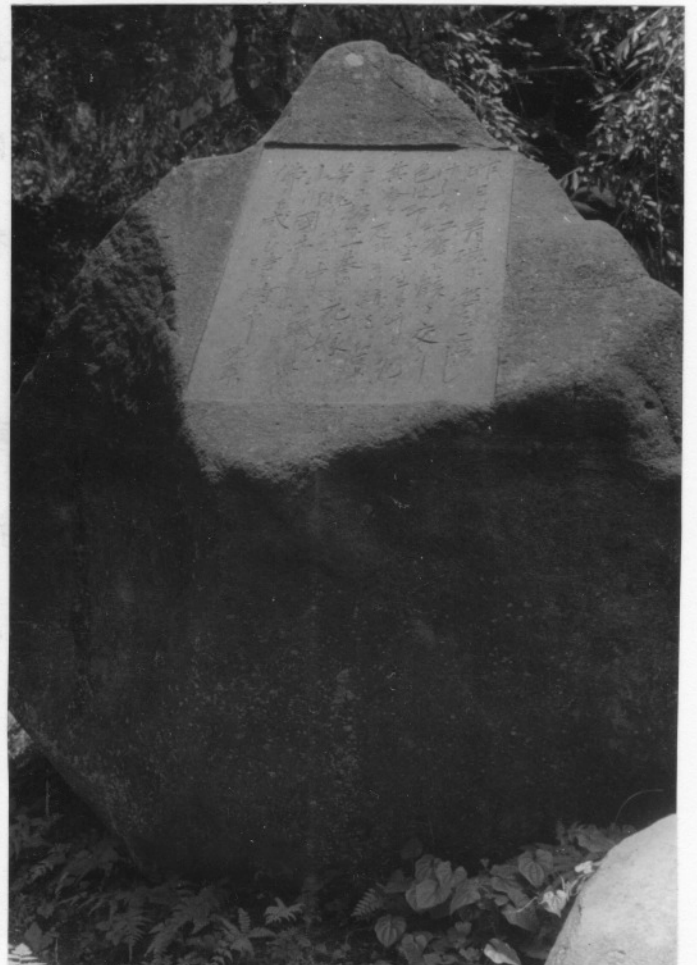
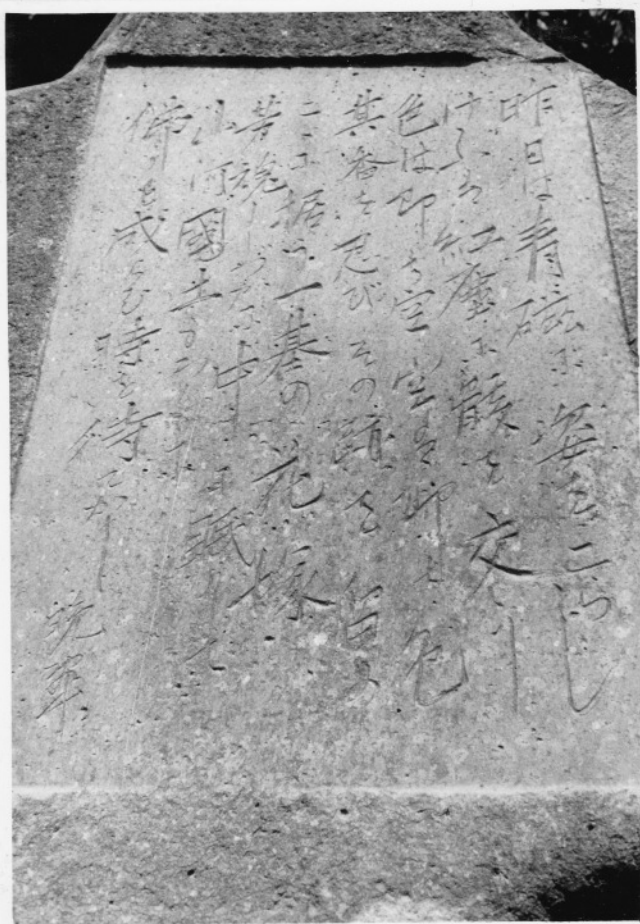
昨日は青磁に姿をこらし
けふは紅塵に骸を交う
色は即ち空 空は即ち色
其香を忍びその跡を留め
こゝに据う一基の花塚
芳魂しづかに中に眠りて
山河国土もろともに
佛と成らむ時を待てかし

晩翠



昨日は青磁の墓に参りて

右側面



土井晩翠記念碑

所在地 宮城県仙台市青葉区大町一二二 晩翠草堂前

情有地天

晩翠

昭和廿四年建之
三商會

碑陰

文字なし

土井晩翠歌碑

所在地 宮城県仙台市青葉区北山 きよと教共同墓地 安藤謙助墓

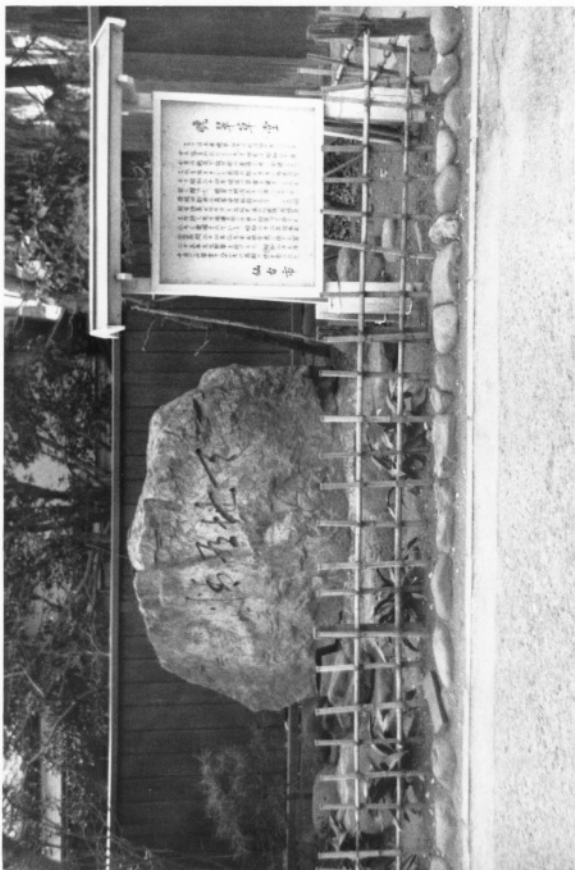
尚綱の女學の子らに父の如く

安藤謙助先生墓

あふかれし君こゝにやすらふ 晩翠

裏面

安藤謙助先生の顕彰碑のため筆記せず
最後の行は昭和十四年十一月とある



土井 晩翠 歌碑

所在地 宮城県仙台市青葉区北山 キリスト教共同墓地 安藤謙助の墓

尚 綱 の 女 學 の 子 ら に 父 の 如 く

安 藤 謙 助 先 生 墓

あ ふ か れ し 君 こゝ に や す ら ふ 晩 翠

裏面

安藤謙助先生の顕彰碑のため筆記せず
最後の行は昭和十四年十一月とある

墓の位置指定 埋葬同氏等十六

> 時の父

墓 主 氏 名

墓 所 名 氏 氏 氏



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県仙台市青葉区台の原七丁目 「瞑想の松」の下

台の原

樗牛冥想の松

昭和十六年孟春

萱場四郎建

碑陰

いくたひか

こゝに眞晝の

夢見たる

高山樗牛

冥想の松

土井晩翠歌

笹川臨風書



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県仙台市青葉区台の原7丁目 「瞑想の松」の下

台の原

樗牛瞑想の松

昭和十六年孟春

萱場四郎建

碑陰

いくたひか

こゝに眞晝の

夢見たる

高山樗牛

瞑想の松

土井晩翠歌
笹川臨風書



共 士

昭和

碑





↑
新碑



↑
新碑



↑
昔の
白黒の
写真



↑
新碑の頭が
少し見える

高山樗牛碑の松（四枚目）

土井晩翠歌碑

所在地 宮城県仙台市青葉区北山 林松院墓地 仇吉の墓

吉祥院豊室貞京大姉

裏面

弔名妓仇吉
 妙音をいづくの 昭和十年十一月六日
 空にとゞむらむ 本庄きやう
 逝ける名妓よ
 秋青葉山 四十二才
 晩翠

十四
 名の
 氏名
 列記
 (略)
 建之



土井 晚翠歌碑

所在地 宮城県仙台市青葉区北山 林松院墓地 仇吉の墓

吉祥院 豊室貞京大姉

裏面

弔名 妓仇吉
妙音をいづくの
空に
とゞむらむ
逝ける名妓よ
秋青葉山
晚翠

昭和十年十一月六日

本庄きやう

四十二才

十四名の

氏名列記

(略)

建之



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県仙台市若林区新寺四七六 大林寺門前

おほひなる

晩翠

真ひるの

白石の裏面
二十二名列記
(略)

夢を

見よかしと

昭和三年十月九日
世話人 成田正
上村野義四郎
前野光一郎
佐藤義郎

生先長き

子らに望まん

所在地 宮城県仙台市若林区新寺四七六 大林寺境内

ゆける子は

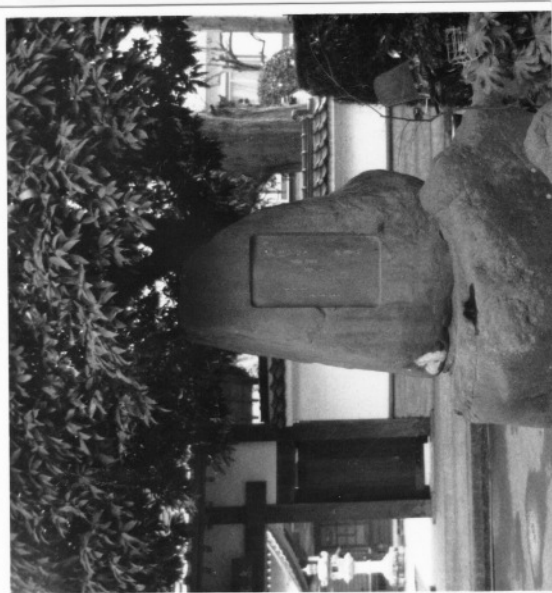
今天上と知り乍ら

折にふれては

泣かざらめやも

晩翠

碑陰
文字なし



土井 晩翠 歌碑

所在地 宮城県仙台市若林区新寺 4-7-6 大林寺門前

お ほ ひ な る 晩 翠

真 ひ る の

夢 を

見 よ か し と

生 先 長 き

台石の裏面

子 ら に 望 ま ん

二十二名列記（略）

昭和三十年十月十九日

世話人 成田 正毅

佐藤義四郎

前野 光義

上村新一郎

所在地 宮城県仙台市若林区新寺 4-7-6 大林寺境内

ゆ け る 子 は

今 天 上 と 知 り 乍 ら

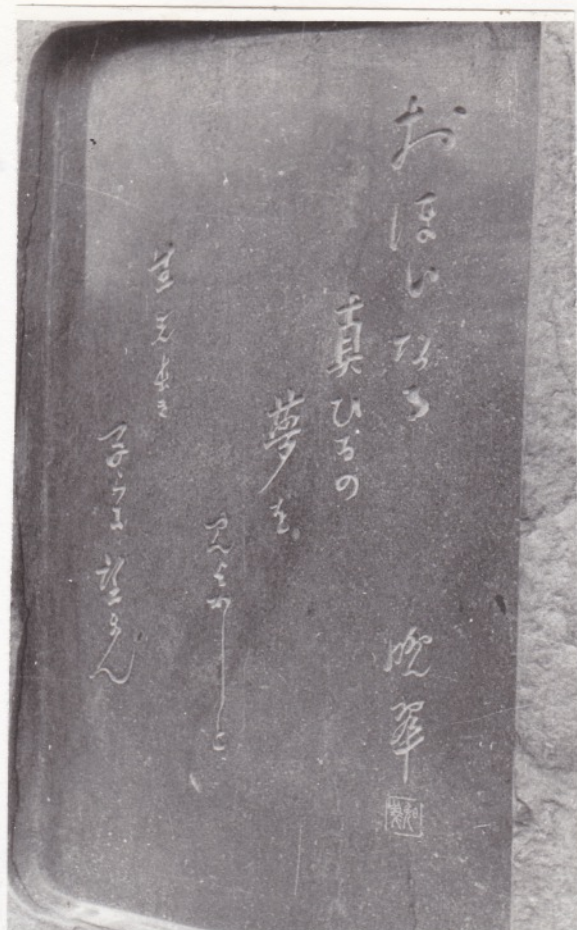
折 に ふ れ て は

泣 か ざ ら め や も

晩 翠

碑陰

文字なし



日武十民十平十三時開
盤五・田野 入部世
酒興舞舞計
舞美 複前



士井晩翠歌碑

所在地 宮城県仙台市若林区古城三三 宮城刑務所内

松の龍蟠

そのむかし

誰か植えけむ

蟠る龍みる如し

あはれこの松

晩翠

碑陰

昭和十四年一月十日建之

宮城刑務所長 小橋川昭慶



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県仙台市若林区古城 2・3 宮城刑務所内

そのむかし

蟠

誰か植えけむ

龍

蟠る龍みる如し

の

あはれこの松

松

晩翠

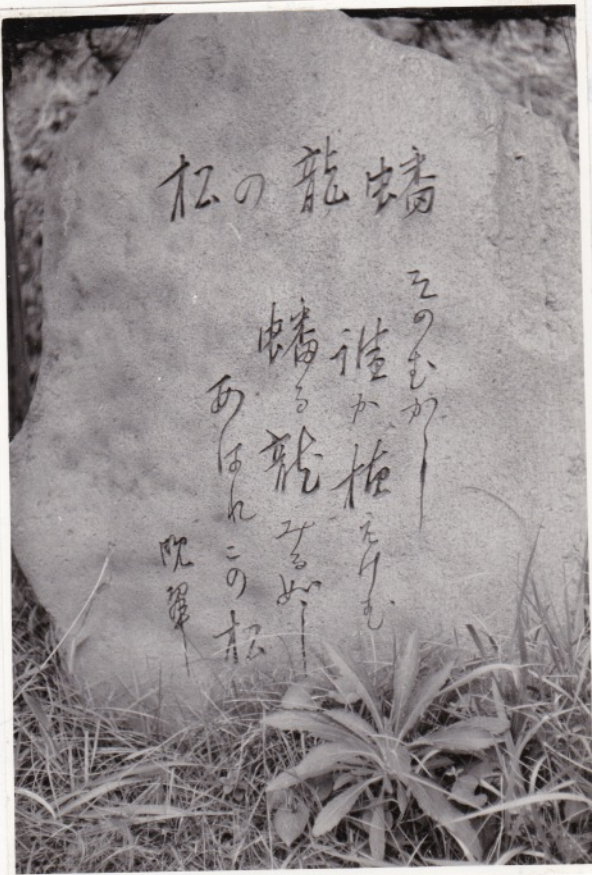
碑陰

昭和十四年一月十一日建之

宮城刑務所長 小橋川昭慶

土共御翠輝軒

西海 宮殿 翠輝御共土 古蹟 翠輝御共土 翠輝御共土



そのまが

公

翠輝



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県宮城郡松島町犬田 べらべ展望台 白衣観音堂扉横

大乘の

國破れても

たふとき教

無量光

あり

よるところ

晩翠

祈るべし

世界の上に

また日の本の

かゝやかん日を

たちあがり

晩翠

建物の裏側

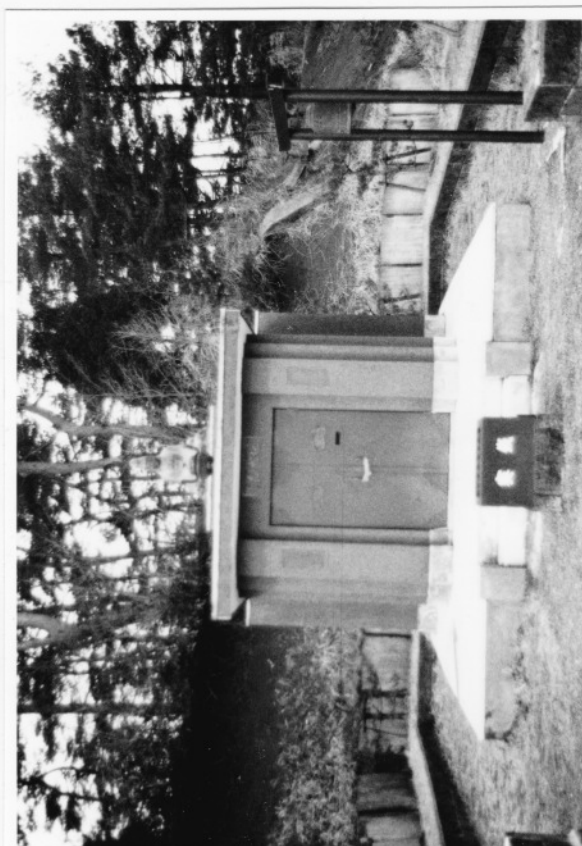
戦没精霊の冥福を祈り建立す

施主 仙台 鈴木 武雄

妻 きくよ

昭和四十二年七月

後援 松島自治振興会
松島海岸区会
松島町



土井 晩翠 歌碑

所在地 宮城県宮城郡松島町犬田 パノラマ展望台 白衣観音堂扉の横

大乘の 國破れても
たふとき教 無量光
よるところ あり
晩翠

祈るべし 世界の上に
また日の本の かゞやかん日を
たちあがり 晩翠

建物の裏側

戦没精霊の冥福を祈り建立す

施主 仙台 鈴木武雄

妻 きくよ

昭和四十二年七月

松島自治振興会

後援 松島海岸地区

松 島 町



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県志田郡二本木町 館山公園 北端

館山の頂高く眺め見る
鳴瀬の川の姿よろしも

有るか無きか霞霞の中に栗駒の
たかね遙に見えわたるかな

館山の頂うれし暮の春
八重の櫻は今さかり也

昭和二十一年 暮春
館山頂上 即吟

七十六歳 土井晩翠

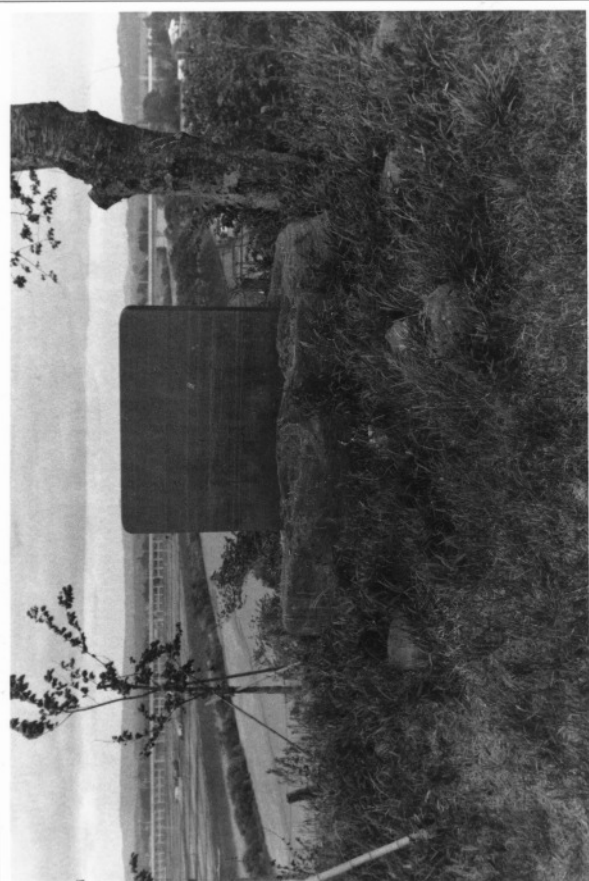
碑陰

文化勲章に輝く詩人土井晩翠先生
には昭和二十一年五月五日本町出
身の宮城県図書館長菊池勝之助氏
の御案内により親しく御来所され
たので八重櫻満開のこの地館山に
宴を催して町民有志と共に御歓待
申上げた時に晩翠先生には詩興の
湧くがままに和歌七首を詠ぜられ
たここにその際揮毫された三首を
刻んで記念とする

昭和二十六年五月五日

御来遊十五周年記念日

新澤順吉謹撰
建之



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県大崎市三本木町 館山公園 北端

館山の頂高く眺め見る

鳴瀬の川の姿よろしも

有るか無きか霞の中に栗駒の

たかね遙に見えわたるかな

館山の頂うれし暮の春

八重の櫻は今さかり也

昭和二十一年 暮春
館山頂上 即吟

七十六歳 土井晩翠

碑陰

文化勲章に輝く詩人土井晩翠先生
には昭和二十一年五月五日本町出身の宮城県図書館長菊池勝之助氏の御案内により親しく御来所されたので八重櫻満開のこの地館山に宴を催して町民有志と共に御歓待申上げた時に晩翠先生には詩興の湧くがままに和歌七首を詠ぜられたここにその際揮毫された三首を刻んで記念とする

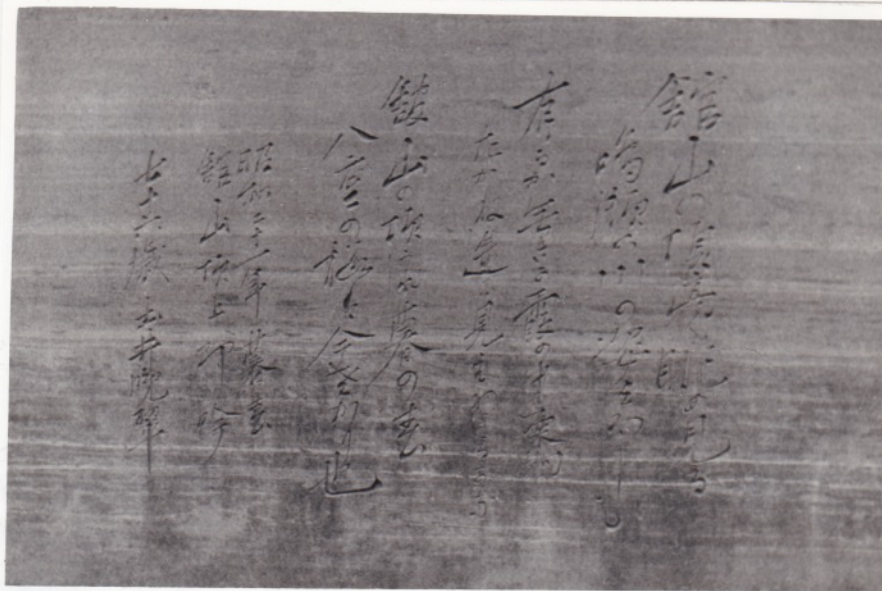
昭和三十六年五月五日

御来遊十五周年記念日

新澤順吉謹撰

建之

東北新幹線の橋脚



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県気仙沼市本町一丁目 観音寺境内

おぼえに雲 一ひらめたりよはす

千世をことばぐ九重の庭

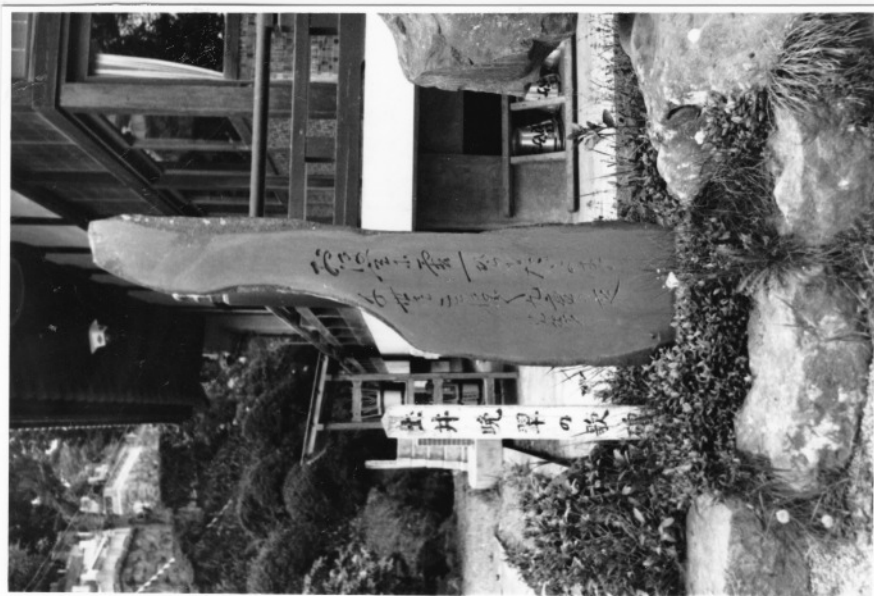
晩翠

碑陰

真和会 俗称
生駄良会

十二名列記(略)

一九六二年文化ノ日建之



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県気仙沼市本町 1-4-16 観音寺境内

おほ空に雲一ひらもたゞよはず

千世をことほぐ九重の庭

晩 翠

碑陰

真和会 俗称 生駄良会

十二名列記（略）

一九六二年文化ノ日建之



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県岩沼市稲荷町 竹駒神社 唐門前

竹駒の

神のみやしる

もうで来て

綻びそめし

神櫻みる

晩翠

碑陰

昭和二十二年

四月

土井晩翠翁

当社参拝の砌

詠進

昭和二十九年甲辰八月

宮司 千葉胤男

建設委員長 平間弥五郎



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県岩沼市稲荷町 1-1 竹駒神社 唐門前

竹 駒 の

神 の み や し ろ

も う で 来 て

綻 び そ め し

神 櫻 み る

晩 翠

碑陰

昭 和 二 十 二 年
四 月

土 井 晩 翠 翁
当 社 参 拝 の 砌
詠 進

昭和二十九年甲午八月

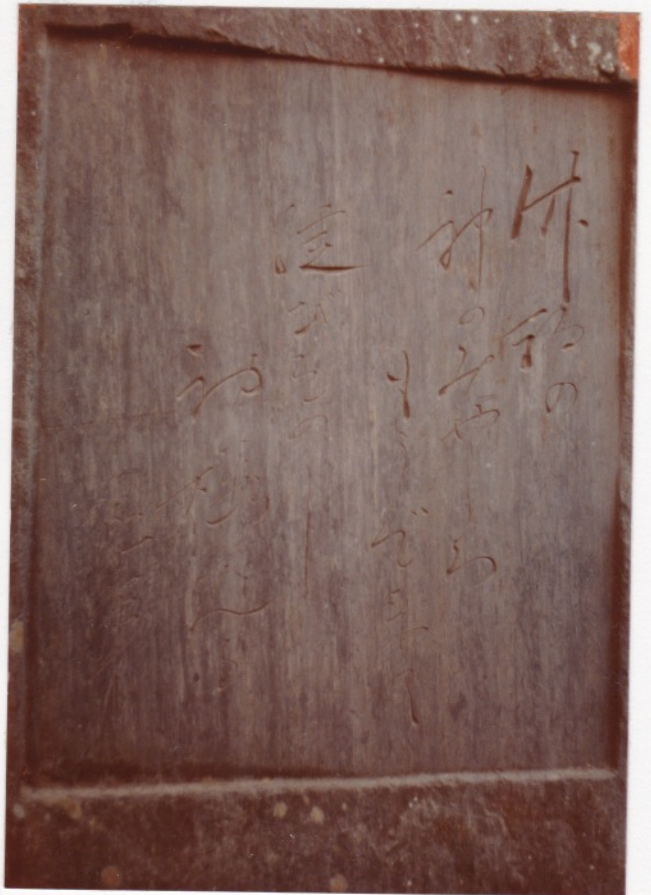
宮 司 千 葉 胤 男

建設委員長 平間弥五郎

説明板
↓



唐門
(随神内)



梅門
←

土井晩翠歌碑

所在地 宮城県白石市大高沢 孝子堂前

郷の生める 晩翠

宮城野信夫

かんばしき

孝女の響

千代に朽ちせず

碑陰

文字なし

所在地 福島市飯坂町湯野東愛宕一 故佐藤盛氏宅庭内

土井晩翠卒

玲瓏の心の日あけ

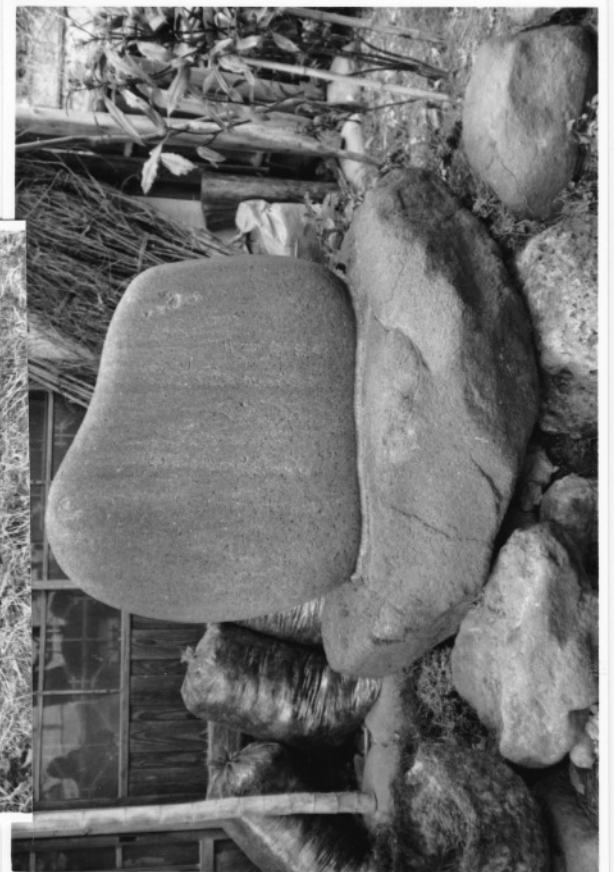
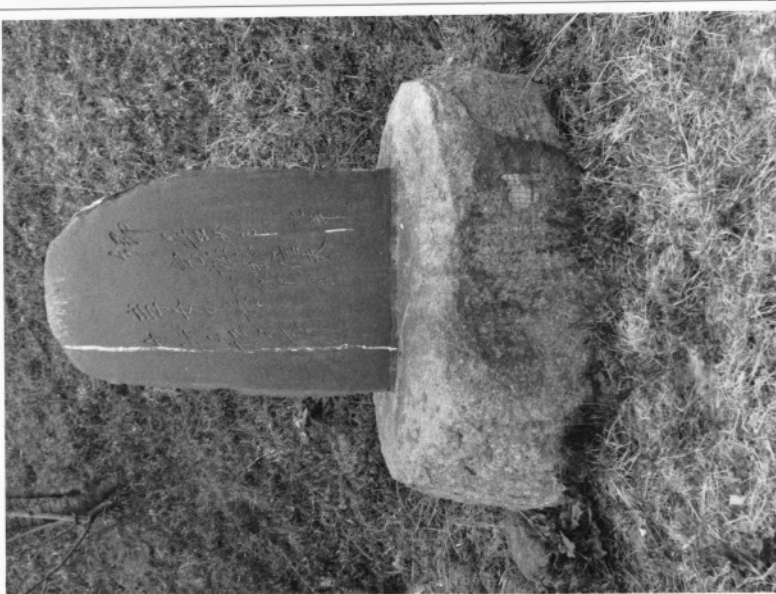
千よろづの

宝ひめたる天地を見よ。

碑陰

文字なし

昭和二十二年春訪 一呑庵



土井晩翠歌碑

所在地 宮城県白石市大高沢 孝子堂前

晩 翠

郷の生める

宮 城 野 信 夫

かんばしき

孝女の譽

千代に朽ちせず

碑陰

文字なし

所在地 福島県福島市飯坂町湯野東愛宕1 故佐藤盛氏宅庭内

土井晩翠

玲 瓏 の 心 の 目 あ け

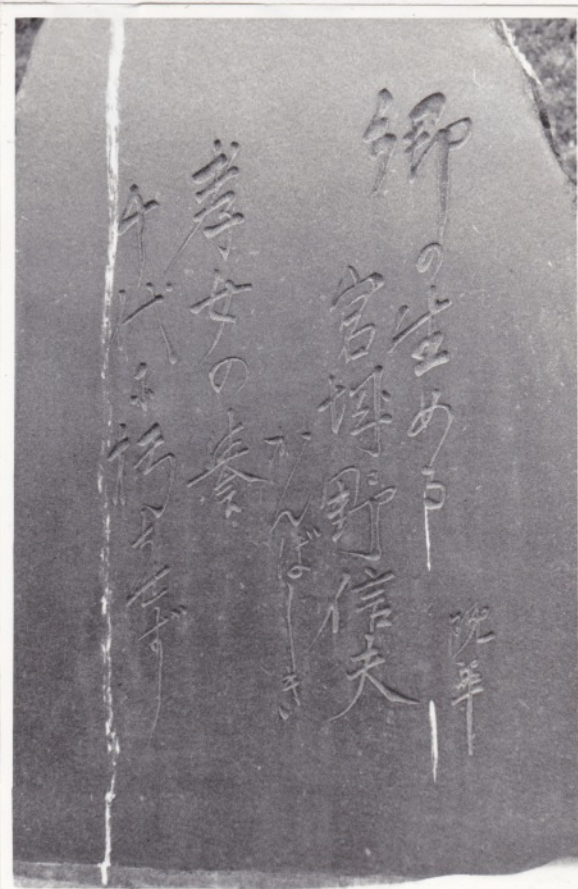
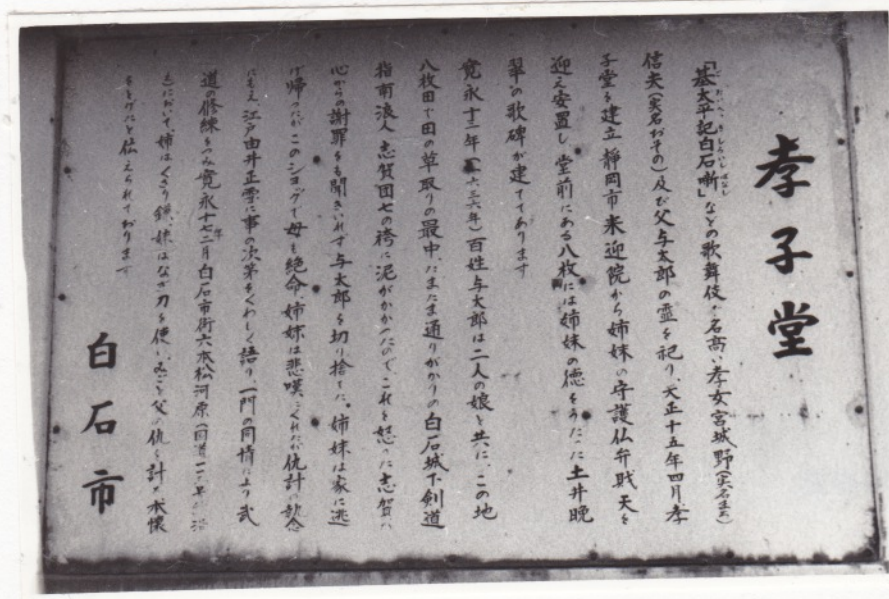
千 よ ろ づ の

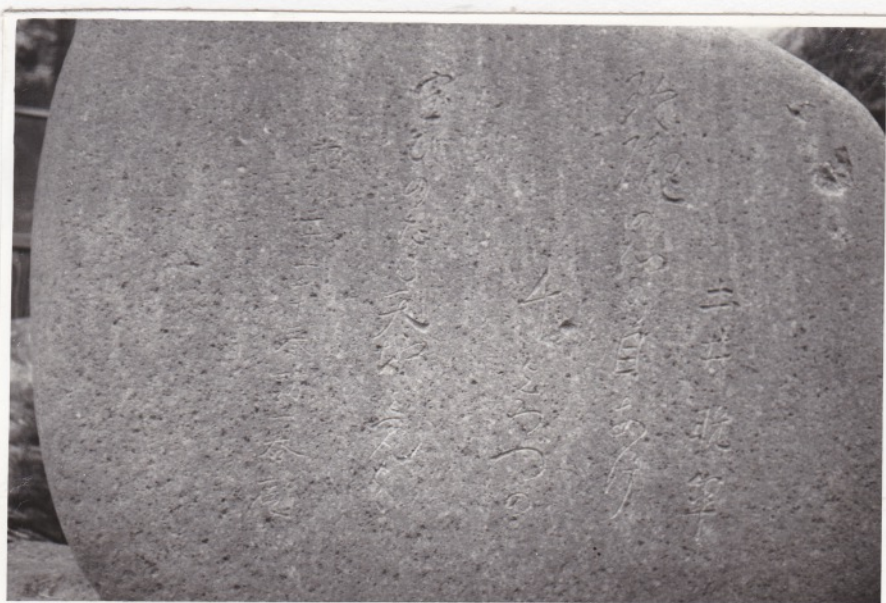
宝ひめたる天地を見よ

昭和二十二年春訪 一 呑 庵

碑陰

文字なし





秋菊
←

土井晩翠歌碑

所在地 福島県二本松市 霞ヶ城址

花 ふ ゝ き

碑陰

霞が城の

しろあとに

仰ぐあたゝら

峯のしら雪

晩翠

昭和二十四年四月十九日 “荒城の月”の

土井晩翠七十八翁がわが社の為に作詩された

會達製糸社歌の発表会に来双の際 花吹雪の

当お城山に杖を曳き 感懷も深く詠じられた

一首である 茲に誌して記念とする

昭和三年十二月三日 會達製糸株式会社

社長 五十嵐武三

大月 昇書

阿部興輔刻



土井晚翠歌碑

所在地 福島県二本松市郭内 霞ヶ城址

花 ふ ぶ き

霞 が 城 の

しろ あ と に

仰 ぐ あ た ゝ ら

峯 の し ら 雪

晚 翠

碑陰

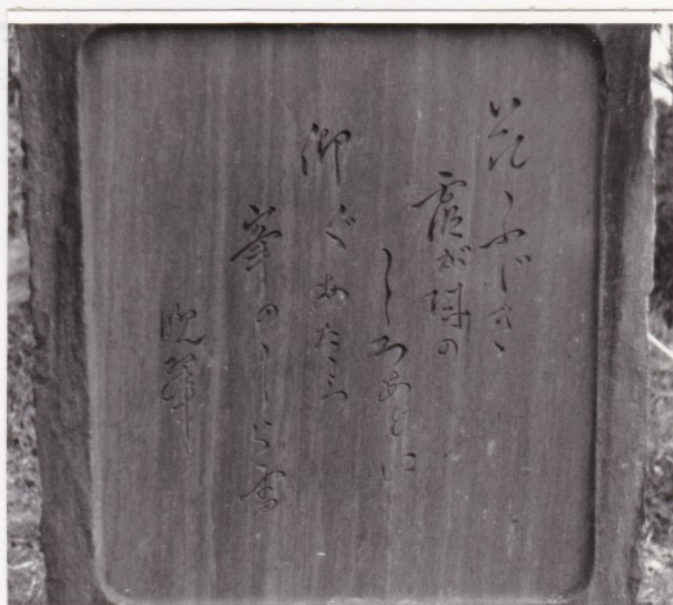
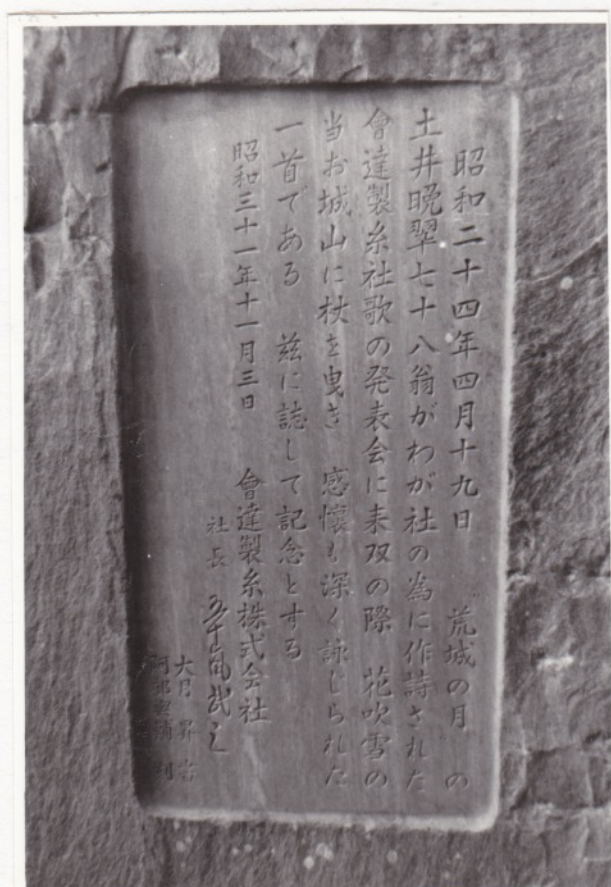
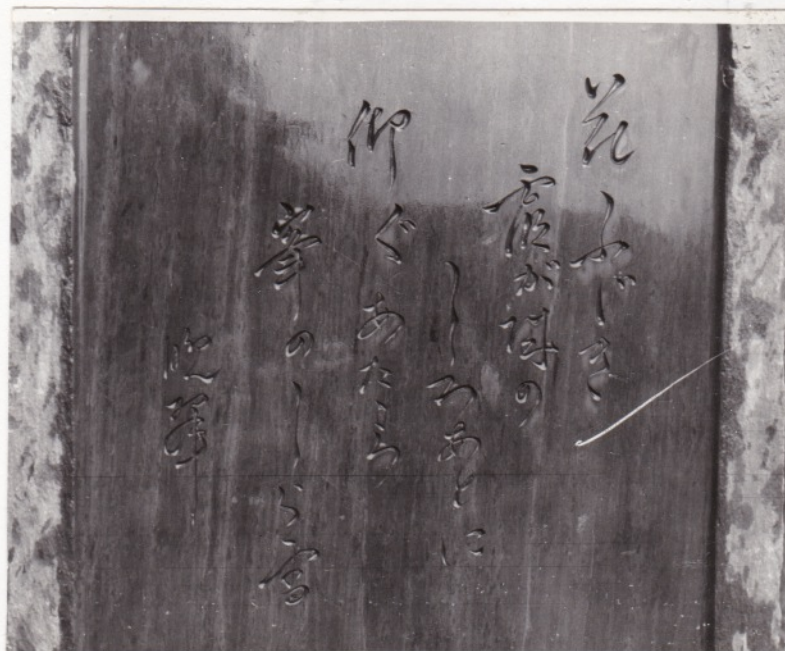
昭和二十四年四月十九日 “荒城の月”の
土井晚翠七十八翁がわが社の為に作詩された
會達製糸社歌の発表会に来双の際 花吹雪の
当お城山に杖を曳き 感懷も深く詠じられた
一首である 茲に誌して記念とする

昭和三十一年十一月三日 會達製糸株式会社

社長 五十嵐武三

大月 昇書

阿部與輔刻



土井晩翠詩碑

所在地 福島県会津若松市追手町 鶴ヶ城址内

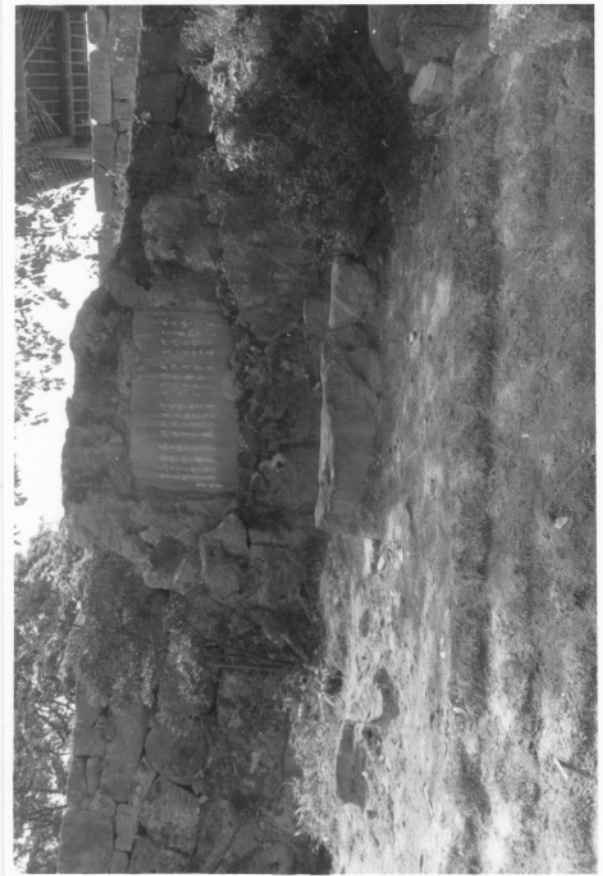
春 高樓の花の宴
めぐる盃影さして
千代の松が枝わけいでし
むかしの光今何處

秋 陣営の 霜の色
鳴きゆく雁の数みせて
植うるつるぎに照りそひし
昔のひかりいまいづこ

今 荒城の夜半の月
変らぬ光たがためぞ
垣に残るは唯かづら
松に歌ふはたゞ嵐

天上影はかはらなど
栄枯は移る世の姿
うつさんとか今もなほ
ああ荒城の夜半の月

土井晩翠



碑陰

第二高等学校生徒時代 鶴ヶ城を訪ひ来て 脳裏に
深く印象を残した 其後鶴ヶ城及び仙臺青葉城等を
詩材として 荒城の月の歌詞成り 短命の天才瀧廉
太郎君の名曲を得てよりこのかた五十年に近い
第二世界大戦終了後二年 全會津の有志諸君
によりて鶴ヶ城址内に此碑建立される往時を忍び
現代を眺め 感慨無量である 土井晩翠

昭和二十二年六月五日

會津 石萬 謹作

土井 晚 翠 詩 碑

所在地 福島県会津若松市追手町1丁目 鶴ヶ城址

春 高 樓 の 花 の 宴
め ぐ る 盃 影 さ し て
千 代 の 松 が 枝 わ け い で し
む か し の 光 今 何 處

秋 陣 營 の 霜 の 色
鳴 き ゆ く 雁 の 數 み せ て
植 う る つ る ぎ に 照 り そ ひ し
昔 の ひ か り い ま い づ こ

今 荒 城 の 夜 半 の 月
変 ら ぬ 光 た が た め ぞ
垣 に 残 る は 唯 か づ ら
松 に 歌 ふ は た ゞ 嵐

天 上 影 は か は ら ね ど
榮 枯 は 移 る 世 の 姿
う つ さ ん と て か 今 も な ほ
あ あ 荒 城 の 夜 半 の 月

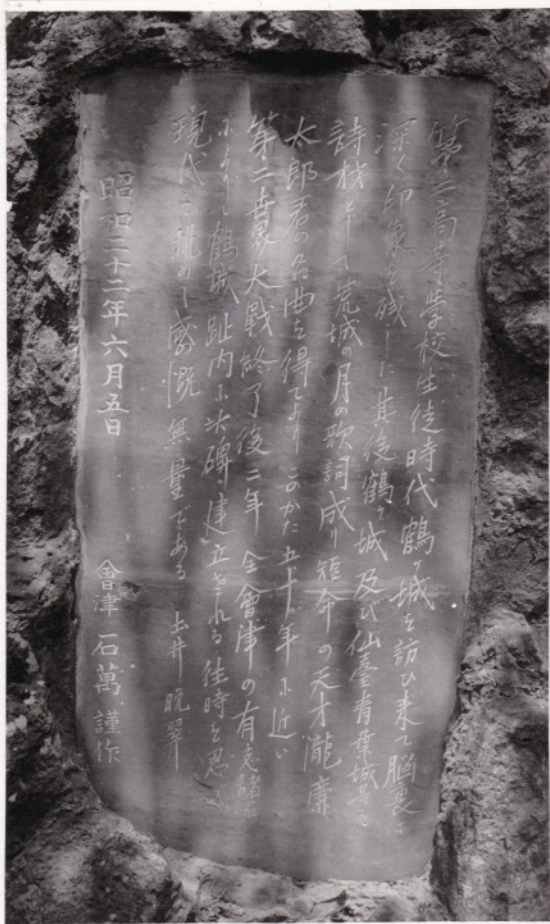
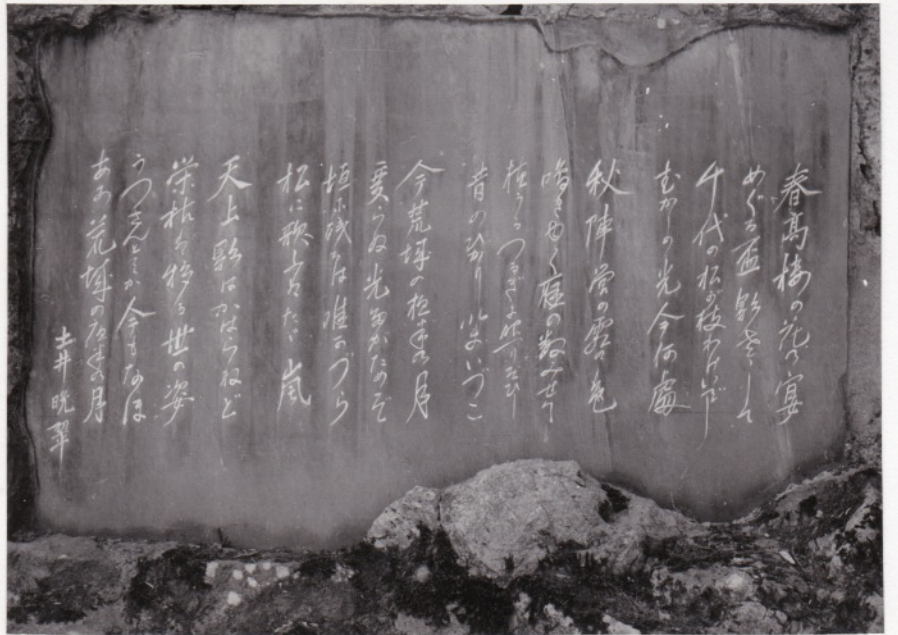
土 井 晚 翠



碑陰

第二高等学校生徒時代 鶴ヶ城を訪ひ来て 脳裏に
深く印象を残した其後鶴ヶ城及び仙臺青葉城等を
詩材として 荒城の月の歌詞成り 短命の天才瀧廉
太郎君の名曲を得てよりこのかた五十年に近い
第二世界大戦終了後二年 全會津の有志諸君
によりて鶴ヶ城址内に此碑建立される往時を忍び
現代を眺めて感慨無量である 土井 晚 翠

昭和二十二年六月五日 會津 石萬 謹作



第三高等学校 生徒時代 鶴ヶ城を訪れ 胸裏に
 深く印象を残し 其後 鶴ヶ城及び仙臺青葉城を
 詩材として 荒城の月の歌詞 成り 短命の天才 龍蔵
 太郎君の名曲を得たり 云かた 一十年 小近
 第三音楽大戦終了後二年 金會津の有友 諸
 君より 鶴城趾内 小水碑 建立される佳時を思ひ
 現代に龍蔵の感慨 無量である 土井 龍翠

昭和二十二年六月五日

會津石萬 謹作

土井晩翠詩碑

所在地 福島県河沼郡湯川村勝常 勝常寺 薬師堂前

一千餘年閑したる
 佛像の數十二を
 傳へ來りし勝常寺
 尊き國の宝なり
 秋のけしきの深みゆく
 會津郊外勝常寺
 佛縁ありて詠うてきて
 十二像を拝がみぬ

昭和二十二年
 十一月四日

土井晩翠

副碑

土井晩翠ウオーナー碑

裏面 昭和五十六年七月十二日

碑陰

記念碑

ラングトン・ウォーナー博士は
 一九〇三年ハーバード大学卒二
 十一歳の頃東京美術学校に留学
 中は同校教授にして勝常寺中尊寺国宝指定並
 中尊寺の愛弟子で太平洋戦中は
 買でめ六角氏が横山大観画伯と
 席上先にウ博士らの提
 撃から救済された話に及
 互いに手を握りあいし
 土井の寺中東北では昔先生から
 報告したと報告したと中尊寺地
 博士の遺徳を永く偲ぶた
 夏 庭

早川喜代次
 撰並書



土井 晩 翠 詩 碑

所在地 福島県河沼郡湯川村勝常代舞 1764 勝常寺 薬師堂前

一 千 餘 年 関 し た る
佛 像 の 數 十 三 を
傳 へ 来 り し 勝 常 寺
尊 き 國 の 宝 な り
秋 の け し き の 深 み ゆ く
會 津 郊 外 勝 常 寺
佛 縁 あ り て 詣 う で き て
十 三 像 を 拝 が み ぬ

昭和二十一年

十一月四日 土井 晩 翠

副碑

土 井 晩 翠 ウ ォ ー ナ ー 碑

裏面 昭和五十六年七月十二日

碑陰 Langdon Warner (署名) (横書き)

(この下に次の文が縦書きで書かれている)

ラングトン・ウォーナー博士は
記念碑 一九〇三年ハーバード大学卒二
十一歳の頃東京美術学校に留学
中は同校教授にして勝常寺中尊寺国宝指定並
修理委員六角紫水氏の愛弟子で太平洋戦中は
米軍の遺跡保護委員であつた

このウ博士のため六角氏が横山大観画伯と
終戦の翌一九四六年七月十日東京築地の旅舎
川村で開いた歓迎宴の席上先にウ博士らの提
言により三古都が爆撃から救済された話に及
ぶと三人は鼎座して互いに手を握りあいしば
し感激の涙にくれた

その時またウ博士は六角恩師に対し爆撃し
ない遺跡のリストの中に東北では昔先生から
よく教えられた勝常寺のある会津と中尊寺地
方を入れておきましたと報告した

我らは今は亡きウ博士の遺徳を永く偲ぶた
めここにこの碑を建てる

一九八一年 夏 早川喜代次／ 撰並書





講堂
(築物堂)
室町時代
(三九八年頃
の再建)
(重文)

土井晩翠歌碑

所在地 福島県南会津郡田島町 丸山公園内

日に見えぬ

神秘の

力

われを引き

義人の

墓に

けふ詣でしむ

昭和十六年

四月十五日 晩翠

碑陰

翠園碑除幕式

参列記念

昭和二十六年

五月二十日建之

西町坪



土井晩翠歌碑

所在地 福島県南会津郡南会津町田島 丸山公園内

目に見えぬ

神秘の

力

われを引き

義人の

墓に

けふ詣でしむ

昭和十六年

四月十五日

晩翠

碑陰

翠園碑除幕式

参列記念

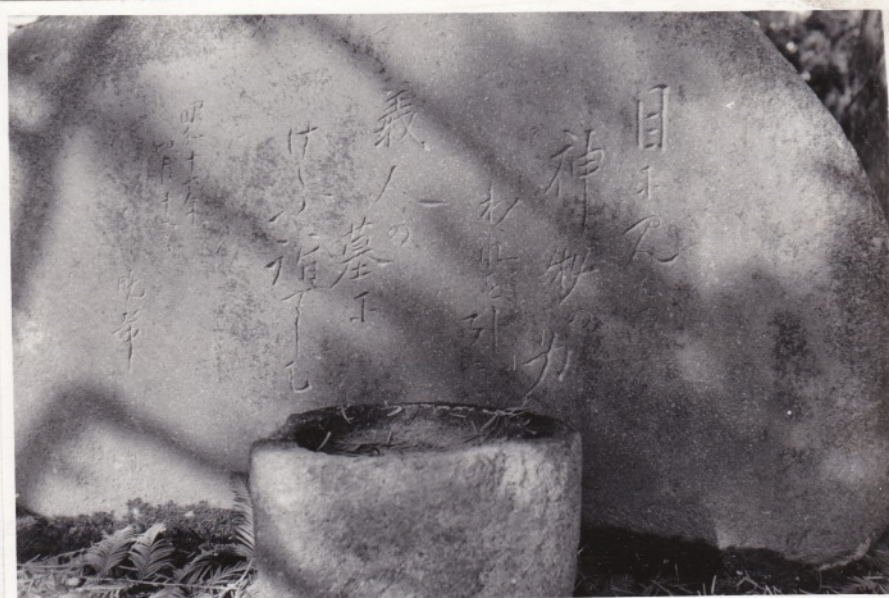
昭和二十八年

五月二十日建之

西町坪



土



土井晩翠歌碑

所在地 福島県双葉郡浪江町大堀 大堀小学校 外隅

小野田橋新に成りて

此郷の 榮と陸

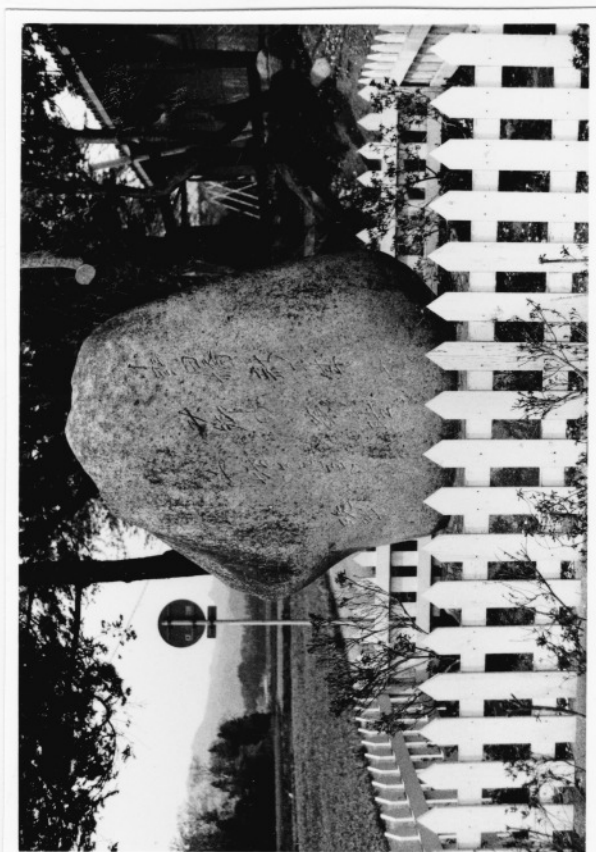
いや増すぞよき

晩翠

碑陰

昭和十年二月十一日小野田橋開橋
式ヲ舉グ
晩翠土井林吉先生親シク御臨席ノ
上一首ヲ誦セラル御揮毫ヲ請フデ
記念碑トナス
昭和十年五月

大堀村



土井晩翠歌碑

所在地 福島県双葉郡浪江町大堀小野田仲禅寺 大堀小学校 外隅

小野田橋新に成りて

此郷の 榮と睦

いや増すぞよき

晩翠

碑陰

昭和十年二月十一日小野田橋開橋
式ヲ舉グ

晩翠土井林吉先生親シク御臨席ノ
上一首ヲ誦セラル御揮毫ヲ請フテ
記念碑トナス

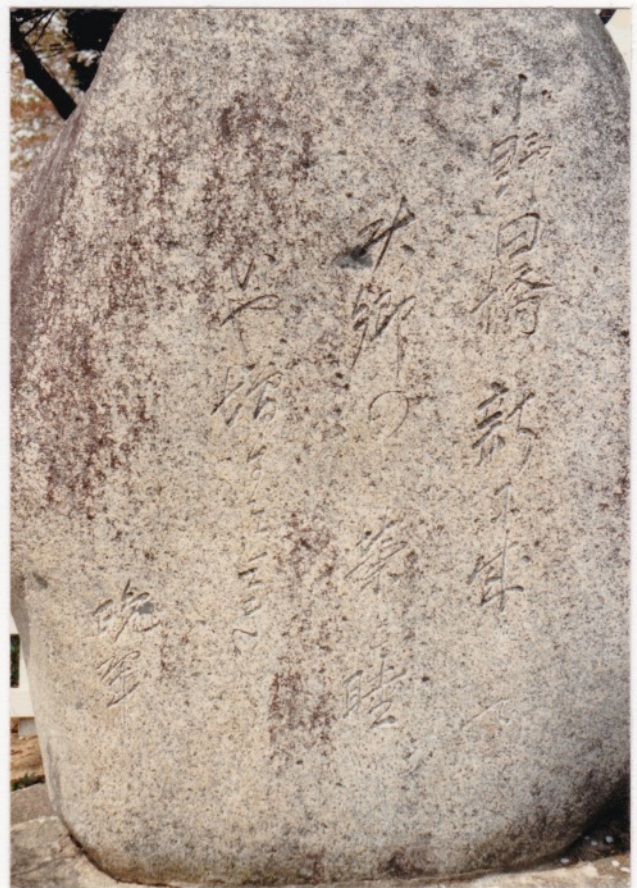
昭和十年五月

大堀村

土井村翠澤軒



大澤村
土井村翠澤軒
土井村翠澤軒
土井村翠澤軒



土井晩翠歌碑

所在地 埼玉県越谷市大字越ヶ谷二七〇 久伊豆神社 参道脇

氣
吹の
屋

いつのみ霊の宿れりし

あととなつかしき越ヶ谷のそと

土井晩翠題詠 笹川臨風染筆

碑陰

昭和十七年十月建之

平田篤胤研究会



土井晩翠歌碑

所在地 埼玉県越谷市越ヶ谷 1700 久伊豆神社 参道脇

気

吹の

屋

いつのみ霊の宿れりし

あとなつかしき越ヶ谷のさと

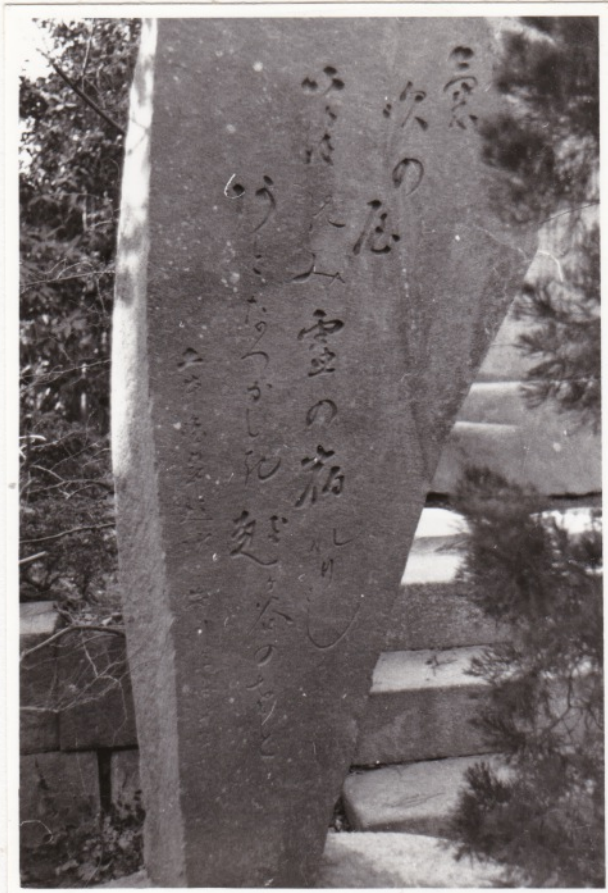
土井晩翠題詠 笹川臨風染筆

碑陰

昭和十七年十月建之

平田篤胤研究会

噴翠の石碑



平田篤胤題辭碑



海の木々



平田篤胤がよく訪ねて来た家

土井晩翠詩碑

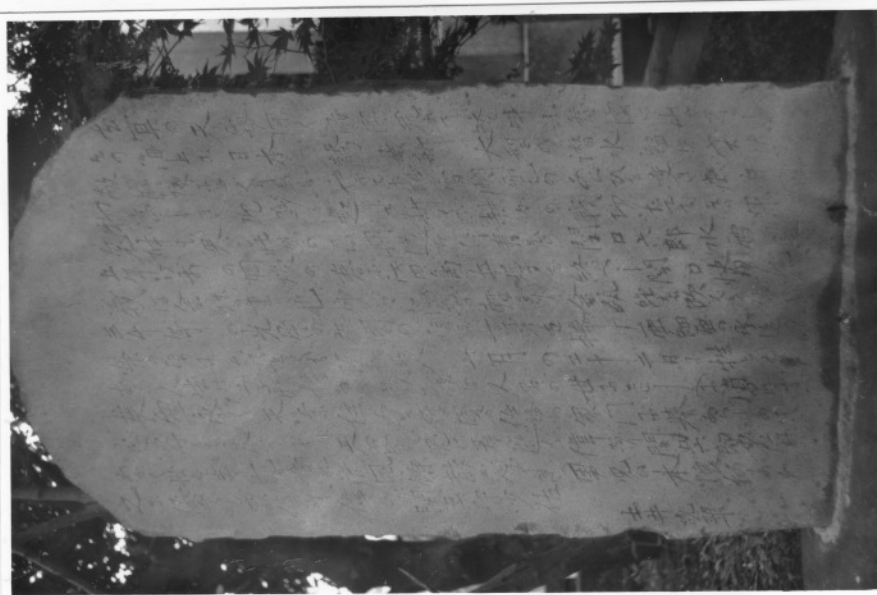
所在地 東京都府中市多磨町四丁目 多磨霊園三区三碑側 関口家墓域

玄冥の天霧深く海潮荒れて吠え叫ぶ怒濤は山のアリエーション
その海上に日本の誇最新大型の潜水艦は突然に
敵艦隊にめぐりあふやがて轟雷閃電のあらびを凌ぎ敵自方
物凄じき砲戦は起りて斯くて赫々の戦功たててその果に
鬼神も哭かむ壮烈の最期遂げたり青春の関口六郎水雷長
五年以前の爛漫の春に江田島兵學を終へし関口快男児
義は金鉄の重き也身は鴻毛の軽きなり金匱絶えて缺くるなき
三千年の光榮の祖國のために一身を捧げ重細亜の永遠の
榮のためにたふとくも昭和十八、六月の二十一日の性となる
ああ人生はみな犠牲その形骸は人間の世にとこしへに消ゆれども
英靈永く天上に住みて護國の任務め家門に響あらしめて
忠孝ともに全うす天の寵児は若く逝く偉なり関口六郎少佐
わかく世を去り範を垂れ流風余韻かんばしき男児の本懐何ものか
之に優らむああ偉なり偉なり関口六郎少佐

土井晩翠

碑陰

文字なし



土井晩翠詩碑

所在地 東京都府中市多磨町4丁目 多磨霊園20区1種10側 関口家墓域

玄冥の天霧深く海潮荒れて吠え叫ぶ怒濤は山のアリューション
その海上に日本の誇最新大型の潜水艦は突然に
敵艦隊にめぐりあふやがて轟雷閃電のあらびを凌ぎ敵自方
物凄じき砲戦は起りて斯くて赫々の戦功たててその果に
鬼神も哭かむ壮烈の最期遂げたり青春の関口六郎水雷長
五年以前の爛漫の春に江田島兵學を終へし関口快男児
義は金鉄の重き也身は鴻毛の軽きなり金甌絶えて缺くるなき
三千年の光榮の祖國のために一身を捧げ亜細亜の永遠の
榮のためにたふとくも昭和十八 六月の二十二日の牲となる
ああ人生はみな犠牲その形骸は人間の世にどこしへに消ゆれども
英靈永く天上に住みて護國の任務め家門に譽あらしめて
忠孝ともに全うす天の寵児は若く逝く偉なり関口六郎少佐
わかく世を去り範を垂れ流風余韻かんばしき男児の本懷何ものか
之に優らむああ偉なり偉なり関口六郎少佐

土井晩翠

碑陰

文字なし



古史補六の國に公卿と云ふは其國の天子に全ふべき事
 依のき同體本の別異を「知」ふは諸余風流に並み勝り去る事と云ふ



土井晩翠詩碑

所在地 新潟県北蒲原郡豊浦町天王三三三 市島邸庭内 榎園

おなじ自然の

おん母の

御手にそだちし

姉と妹

みそらの花を

星といひ

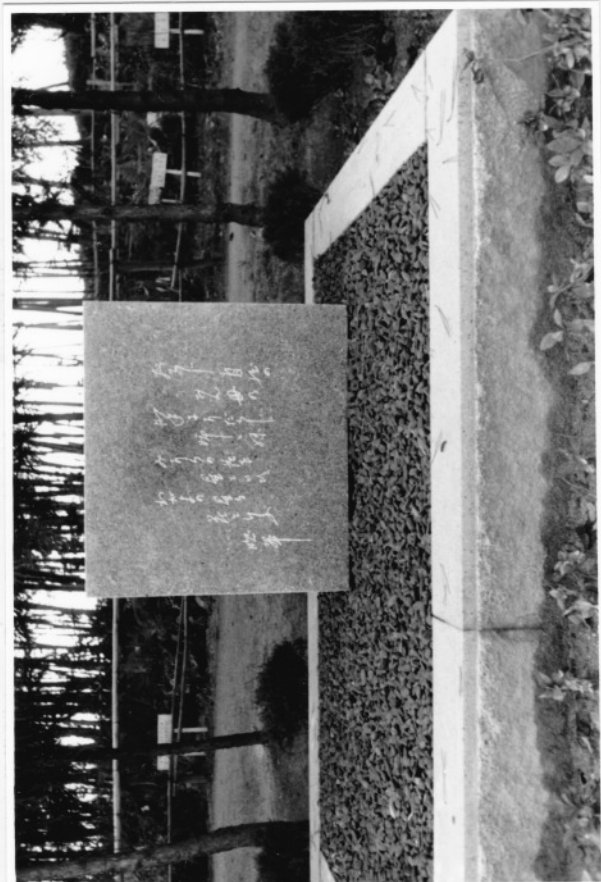
わがよの星を

花といふ

晩 翠

碑陰

文字なし



土井晩翠詩碑

所在地 新潟県新発田市豊浦町天王 1563 市島邸庭内 植物園内

おなじ自然の

おん母の

御手にそだちし

姉と妹

みそらの花を

星といひ

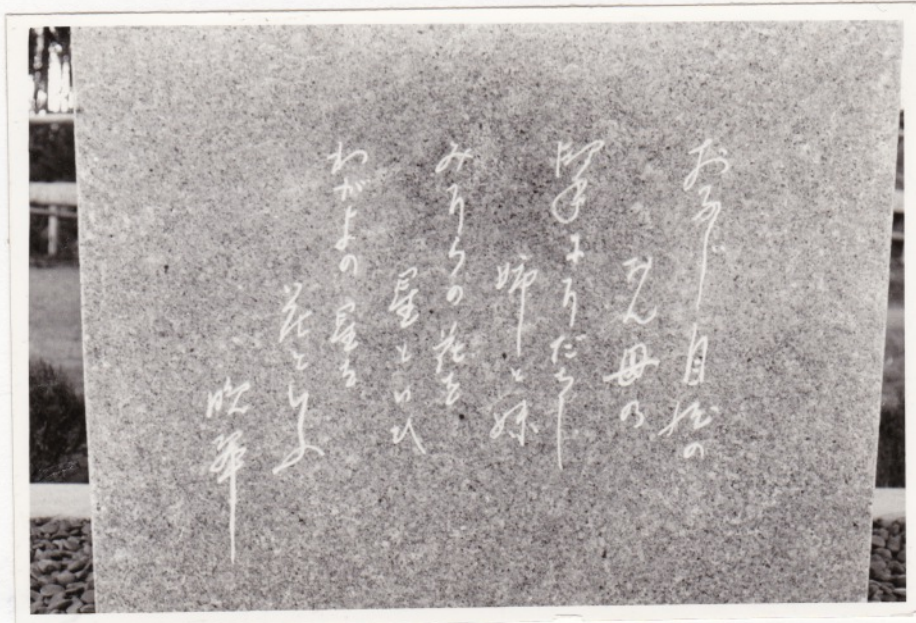
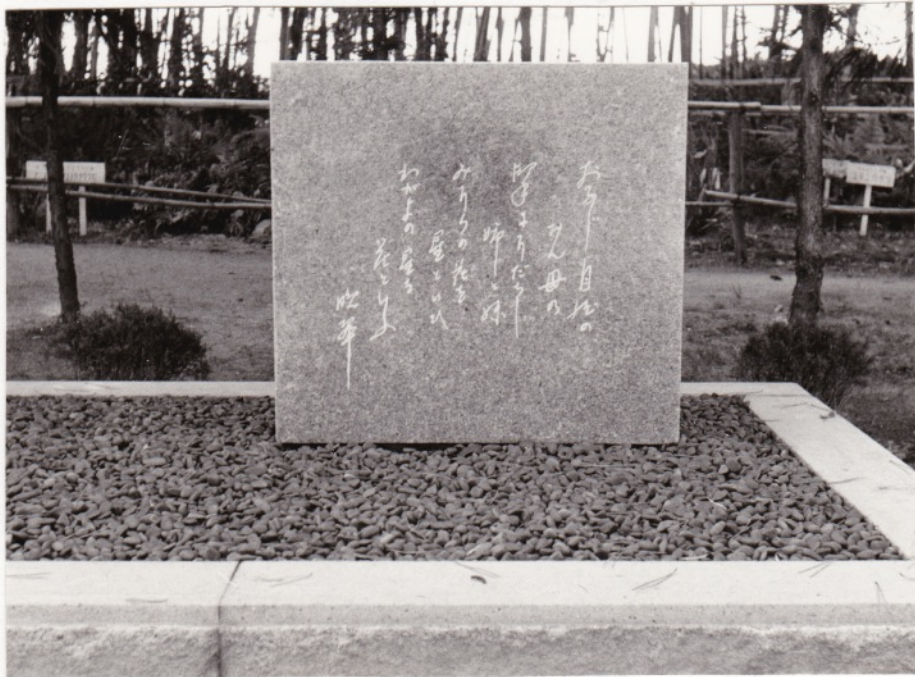
わがよの星を

花といふ

晩翠

碑陰

文字なし



土井晩翠歌碑

所在地 和歌山県伊都郡高野町高野山交り 普賢院境内

風なきに

白衣観音

斜の落葉

の

いふかれば

彫像

梢はなる、

小鳥一むれ

晩翠

碑陰

詩寶院殿希翁晩翠清居士

昭和二十七年十月十九日寂

俗名 土井林吉 行年八十一歳



土井 晩 翠 歌 碑

所在地 和歌山県伊都郡高野町高野山 608 普賢寺境内

風 な き に

白衣観音

斜 の 落 葉

の

いぶかれば

彫 像

梢 は な る へ

小 鳥 一 む れ

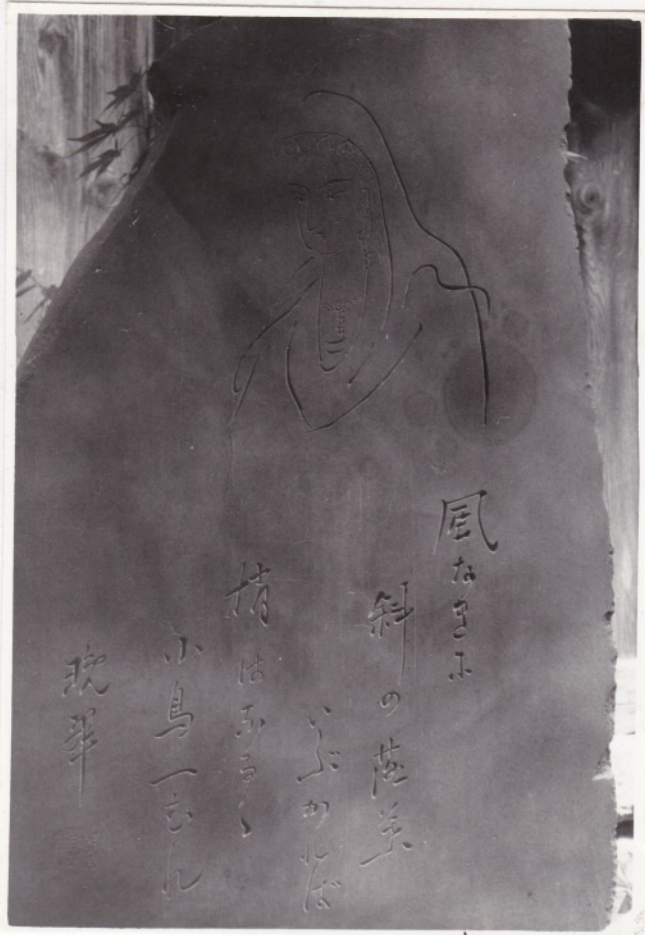
晩 翠

碑陰

詩寶院殿希翁晩翠清居士

昭和二十七年十月十九日寂

俗名 土井林吉 行年八十一歳



土井晩翠詩碑

所在地 大分県竹田市 岡城址 本丸跡

荒城の月

春高樓の花の宴 秋陣営の夜半の霜
廻る丕血影として 鳴き行く雁の数見せて
千代の松が枝わけいでし 植うる劔に照りそへし
昔の光今いづこ むかしの光今いづこ

晩翠

碑陰

荒城ノ月ノ歌ハ詩人土井晩翠氏ノ名作ナリ封
建時代華ヲナリシ名城モ次第ニ荒廢ニ歸シ今
ヤ僅ニソノ名殘ヲ惜ムノミ君ガ郷友瀧廉太郎
氏ハ詩人晩翠氏ノ詩ヲ愛誦ス偶々晩秋ノ夜岡
城ニソノ舊地ヲ訪ヌ秋風靜ニ松ノ枝ヲ鳴ラシ
明月ソノ影ヲ映ヌ詩興遽ニ動キ此ノ名曲ヲ作
セリト聞ク實ニ此ノ詩曲トハ因縁淺カラザル
名蹟ナリ

余晩翠氏ト親シ特ニ余ニ此ノ詩ヲ贈ラル依テ
之ヲ後世ニ傳ヘ吾ガ郷土ノ名城ヲ偲ベントス

昭和九年十月建

阿南正成
深田徳三書

左側面

篤志者

黒野専次郎
加嶋恭三郎
加嶋宗次郎

右側面

世話人

深田徳三
阿南吉夫
櫻木實藏



土井 晚翠 詩 碑

所在地 大分県竹田市 岡城址 本丸跡

月 の 城 荒 (横書き)

(この下に縦書きで次の詩が書かれている)

春 高 樓 の 花 の 宴 秋 陣 営 の 夜 半 の 霜
廻 る 盃 影 さ し て 鳴 き 行 く 雁 の 数 見 せ て
千 代 の 松 が 枝 わ け い で し 植 う る 劔 に 照 り そ へ し
昔 の 光 今 い づ こ む か し の 光 今 い づ こ
晩 翠

碑陰

荒城ノ月ハ詩人土井晩翠氏ノ名作ナリ封建時代華ヤカナリシ名城モ次第ニ荒廢ニ歸シ今ヤ僅ニソノ名殘ヲ惜ムノミ君ガ郷友瀧廉太郎氏ハ詩人晩翠氏ノ詩ヲ愛誦ス偶々晩秋ノ夜岡城ニソノ舊地ヲ訪ヌ秋風静ニ松ノ枝ヲ鳴ラシ明月ソノ影ヲ映ス詩興遽ニ動キ此ノ名曲ヲ作セリト聞ク實ニ此ノ詩曲トハ因縁淺カラザル名蹟ナリ

余晩翠氏ト親シ特ニ余ニ此ノ詩ヲ贈ラル依テ之ヲ後世ニ傳ヘ吾ガ郷土ノ名城ヲ偲バントス

昭和九年十月建

阿南正成

深田徳三書

左側面

篤志家 黒野専次郎
加嶋恭三郎
加嶋宗次郎

右側面

世話人 深田徳三
阿南吉天
櫻木實蔵





岡城址(9登り口)



岡城址の石垣
←



岡城北よりの展望
北方

里山 ↓
大船山 ↓
久住山 ↓



南方

祖山 ↓

傾山 ↓



岡城跡の展望

峠 三吉詩碑

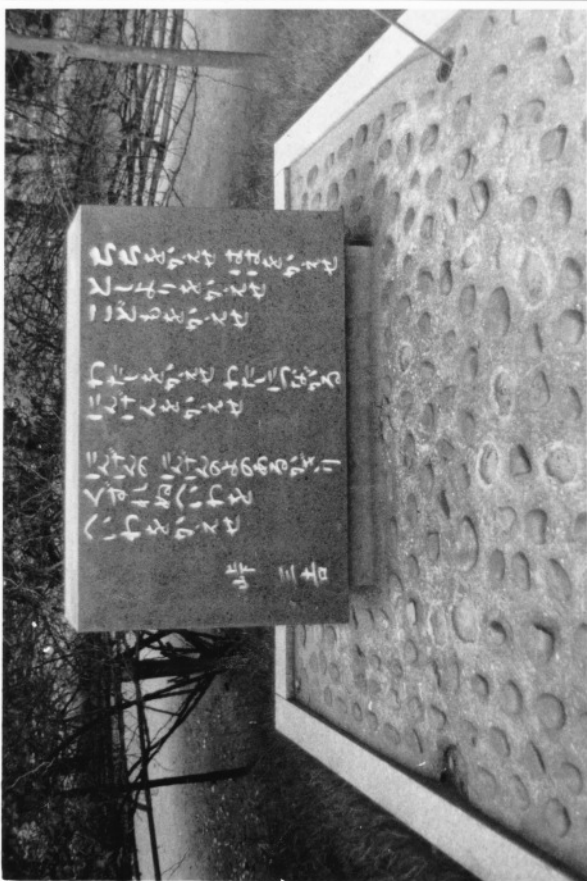
所在地 広島県広島市南区 平和公園内 慰霊碑東側

ちちをかえせ ははをかえせ
おじよりをかえせ
こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬ いわを
く いわをかえせ

峠 三 吉



碑陰

Give Back the Human Sankichi Toge

Give back my father, give back my mother;
Give grandpa back, grandma back;
Give my sons and daughters back.

Give me back myself,
Give back the human race.

As long as this life lasts, this life,
Give back peace
That will never end.

written and
translated by
Miyao Ohara

左側面 建設

碑文 施工

1963年8月6日
平和のための広島県文化会
峠三吉詩碑建設委員会
三吉詩碑建設委員会
三吉詩碑建設委員会

略歴

峠 三吉(みよきち) 大正六年二月十九日 大
阪府豊中市に生まれる 県立広島商
業卒業 昭和二十六年三月十日歿す 享年
三六歳 キリスト信徒 墓は広島市中
区中島町九十五 西応寺墓地にある

峠 三吉 詩 碑

所在地 広島県広島市南区 平和公園内 慰霊碑 東側

ちちをかえせ ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる
にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ

峠 三吉

碑陰

Give Back the Human
Sankichi Toge

Give back my father, give back my mother;
Give grandpa back, grandma back;
Give my sons and daughters back.

左側面

Give me back myself,
Give back the human race.

建設 1963年8月6日

平和のための広島県文化会議

峠 三吉 詩碑建設委員会

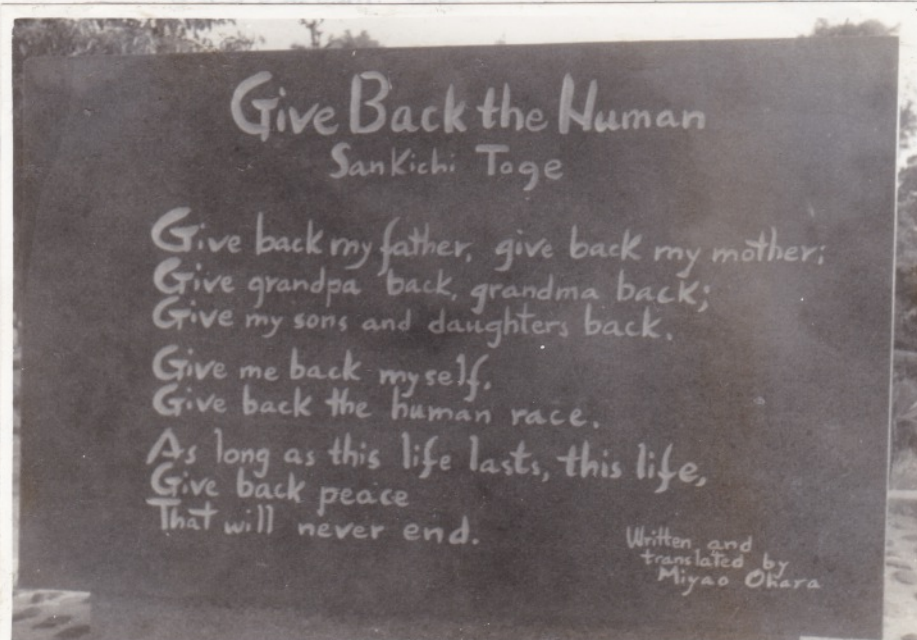
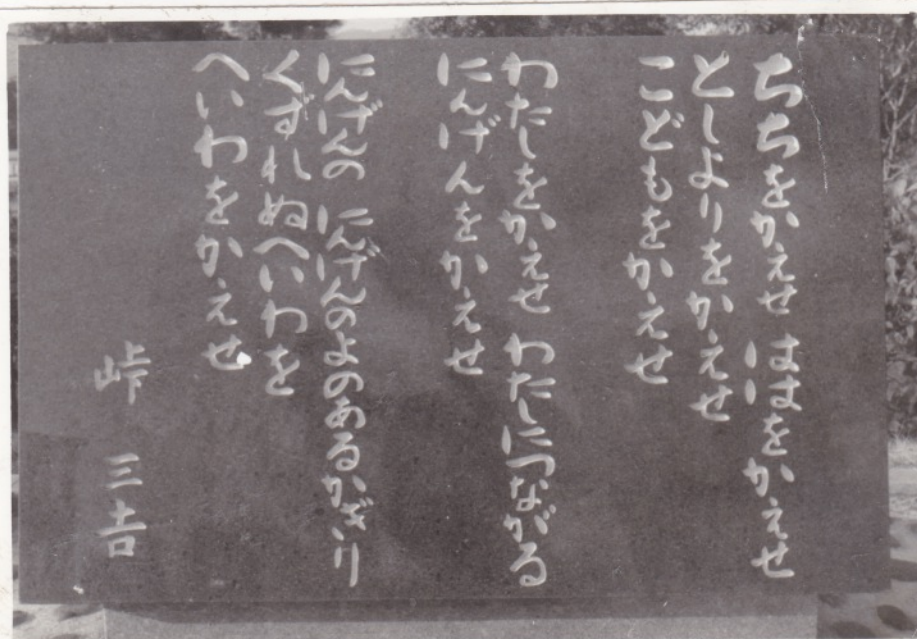
As long as this life lasts, this life,
Give back peace

碑文 三宅一子書 大原三八雄英訳書

施工 省略

That will never end. written and
translated by
Miyao Ohara

略歴 峠 三吉(みつよし) 大正6年2月19日 大阪府豊中市に生れる 県立広島商業卒業
昭和28年3月10日歿す 享年36歳 キリスト信徒 墓は広島市中区中島町9-5
西応寺にある





慰霊碑 (真正面にドームが見える)

千羽鶴の碑 ↓



原爆ドーム ←

東野辺薫文学碑

所在地 福島県二本松市成田、遊歩道沿い

東野辺薫文学碑

一槽目のネリを絞ってる
ると、母屋の方で何か言ふ
ユミのこゑが聞えてきた。
はつとした氣持で簀櫃に手
をかけたが、一枚々々漉い
てゆくうちに、やがて我れ
知らずいつもの漉き三味の
境に入ってしまった。ふと
足音が漉屋の前にとまった
時も、友太の心は淵のやう
に静かであった。

「和紙」より

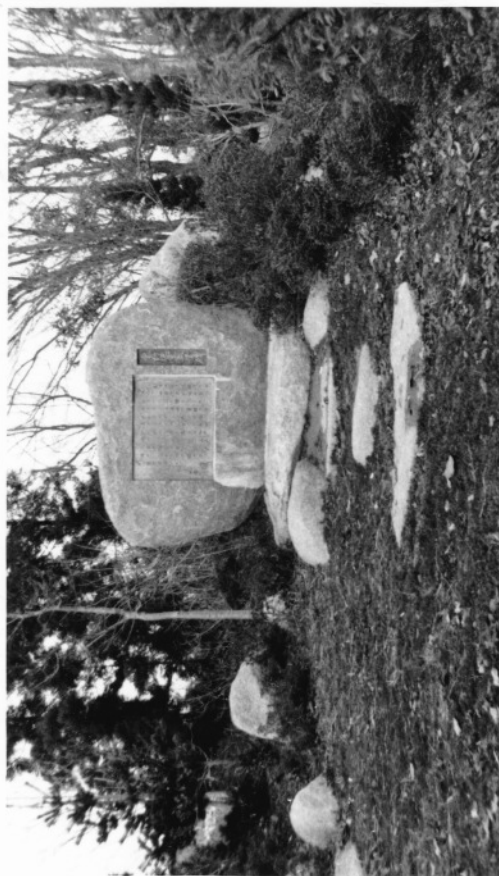
碑陰

碑に寄す

東野辺薫（本名）野辺慎一先生は明治三十五年二本松町に生まれ、早稲田大学卒業ののち福島県立安達中学校（現安達高等学校）に長く教鞭をとり、かたわら創作にいそしむ。昭和三十七年没す。
「和紙」は第十八回芥川賞を受けた作品で、滝井孝作が選評において「和紙、日本の生漉の紙、これの強くてうるおいのある感じ」とし、河上徹太郎が「この小説に皆が一番ひかれたのは結局この作品の中に何ともいえぬ心やかなものがあつたからだろう」としていふ。先生はあくまで福島を活動の場として、ついに中央文壇に出ることをしなかつたが、「黎を待つ人々」「国土」「人生退場」他の多くの作品を残している。
我等は相はかつてここに小碑を建て先生をしのぶがとするものである。

昭和五十二年四月

東野辺薫文学碑建立委員会



東野辺薫 本名
野辺慎一 明治
三十五年三月九日
福島県二本松に
生まれる 早大
高師部国漢科
卒 昭和三十七年
六月二十五日歿す
享年六十歳

東野辺薫文学碑

所在地 福島県二本松市成田 遊歩道沿い

東野辺薫文学碑

二槽目のネリを絞ってみると、母屋の方で何か言ふユミのこゑが聞えてきた。はっとした氣持で簀篋に手をかけたが、一枚々々漉いてゆくうちに、やがて我れ知らずいつもの漉き三昧の境に入ってしまった、ふと足音が漉屋の前にとまった時も、友太の心は淵のやうに静かであった。

「和紙」より

碑陰

碑に寄す

東野辺薫一（本名）野辺慎一先生は明治三十五年二本松町に生まれ、早稲田大学卒業ののち福島県立安達中学校（現安達高等学校）に長く教鞭をとり、かたわら創作にいそしむ。昭和三十七年年没す。

「和紙」は第十八回芥川賞を受けた作品で、滝井孝作が選評において「和紙、日本の生漉の紙、これの強くてうるおいのある感じ」とし、河上徹太郎が「この小説に皆が一番ひかれたのは結局この作品の中に何ともいえぬ心やかなものがあつたからだろう」としている。

先生はあくまで福島を活動の場として、ついに中央文壇に出ることをしなかったが「黎明を待つ人々」「国土」「人生退場」他の多くの作品を残している。

我等は相はかつてここに小碑を建て先生をしのぶよすがとするものである。

昭和五十三年四月

東野辺薫文学碑建立委員会

東野辺薫の
レリーフ

略歴

東野辺薫 本名 野辺慎一 明治 35 年 3 月 9 日 福島県二本松若宮に生まれる
早大高等師範部国漢科卒業 昭和 37 年 6 月 25 日歿す 享年 60 歳 墓は福島県
二本松市二井滝 龍泉寺墓地にある

大の丘に
光太郎の
詩碑あり

霞ヶ城
とむす



（対岸の風景） 対岸の風景を望む

対岸の風景、対岸の風景



東野田
童文学碑

東宮七男詩碑

所在地 群馬県前橋市千代田町五十二 広瀬川畔

花なればこそ

碑陰

東宮七男

昭和五十二年十二月三日

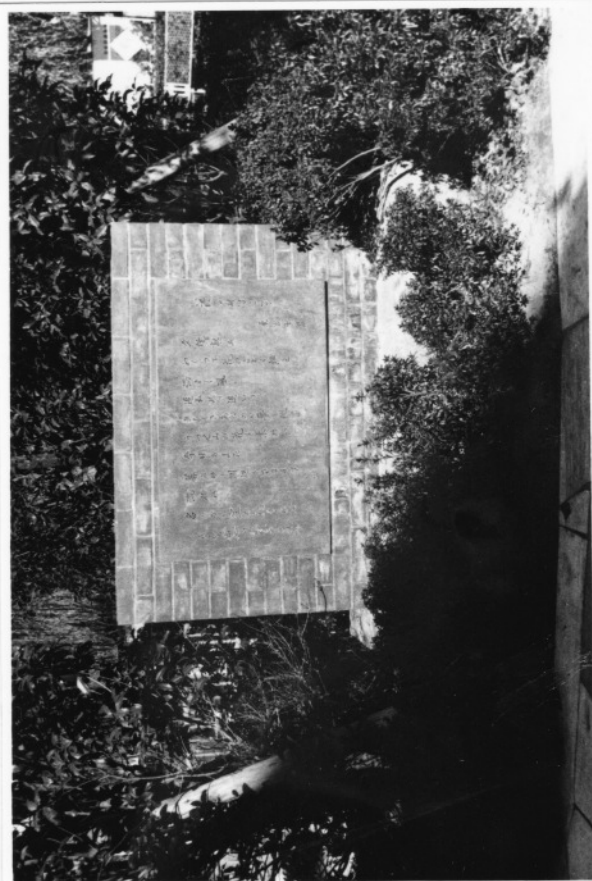
東宮七男詩碑建設委員会

設計 高田博厚

夕焼熟れ
わくらはば花のごとく燃え
渦まき風に
追われつ追いつ
きびしきあらがい夢と化す
うつせみの花を求めつ
今日もまた
暮れゆく川辺をさまよう
流れゆく
名もなき空の花なれば
ひたひた思いわすろうのみ

略歴

東宮七男、明治三十年 群馬県勢多郡宮城村苗ヶ島に生まれる 群馬師範卒
昭和六三年歿す 享年九二歳



東宮七男詩碑

所在地 群馬県前橋市千代田町 5-20 廣瀬川畔

花なればこそ

東宮七男

夕焼熟れ

わくらば花のごとく燃え

渦まく風に

追われつ追いつ

きびしきあらがい夢と化す

うつせみの花を求めつ

今日もまた

暮れゆく川辺をさまよう 碑陰

流れゆく

昭和五十三年十一月二十三日

名もなき空の花なれば

東宮七男詩碑建設委員会

ひたひた思いわずろうのみ

設計 高田博厚

略歴

東宮七男(とうみやかずお) 明治 30 年 群馬県勢多郡宮城村苗ヶ島に生れる
群馬師範卒業 昭和 63 年歿す 享年 91 歳



東宮

東宮

東宮

東宮

東宮

東宮

東宮

東宮

東宮

東宮

東宮

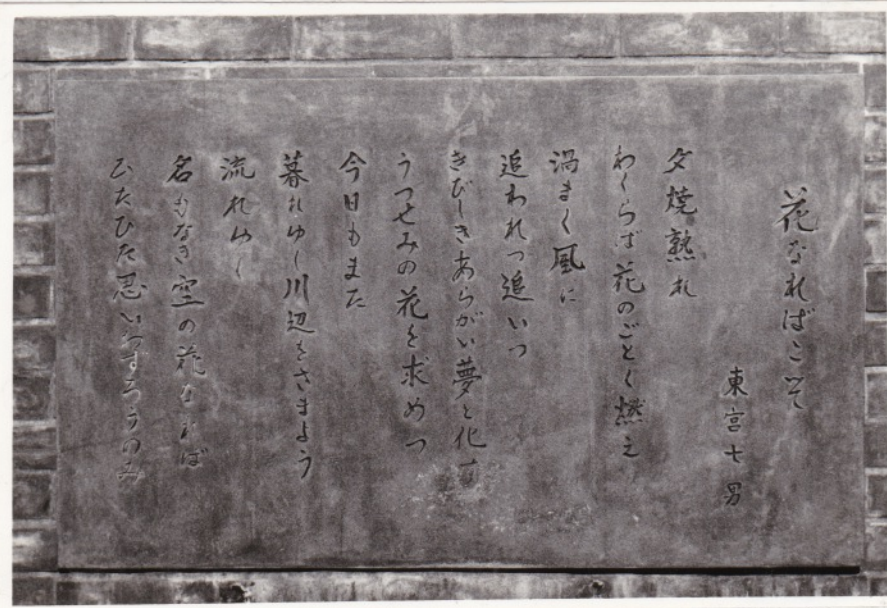
東宮

東宮

東宮

東宮

東宮



通りやんせの像記念碑

所在地 茨城県北茨城市磯原町 双つ島

男女二童の
ブロンズ像

通りやんせの像
制作 昭和三十一年五月
山崎猛建立
北茨城市磯原町

像の台座

1960

一番下の石の裏側

昭和三十一年五月五日子供の日建立之

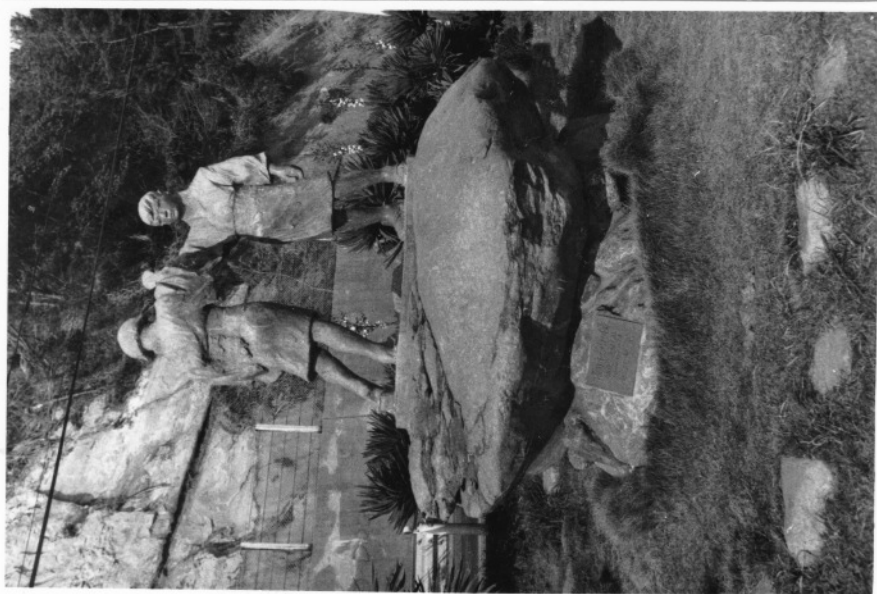
茨城県北部産業道路舗装促進委員会

会長 北茨城市長 不明

副会長 高 野 警察長 安村

副会長 十 玉町長 鈴木

委員 一名(略)



通りゃんせの像記念碑

所在地 茨城県北茨城市磯原町 双つ島

男 女 二 童 の ブ ロ ン ズ 像

像の台座

1960

(横書き)

通 り ゃ ん せ の 像
制 作 山 崎 猛
昭和三十五年五月五日建立
北 茨 城 市

一番下の石の裏面

昭和三十五年五月五日子供の日建之
茨城県北部産業道路舗装促進既成会
会 長 北茨城市長 不明
副会長 高 萩 市 長 安村
副会長 十 王 町 長 鈴木
委 員 一名(略)

通いやんせ記念碑

所在地 埼玉県川越市郭町二丁目 三芳野神社境内

わらはとこの細道ぢや

天神さまのはそみちぢや

わらべ唄発祥の所

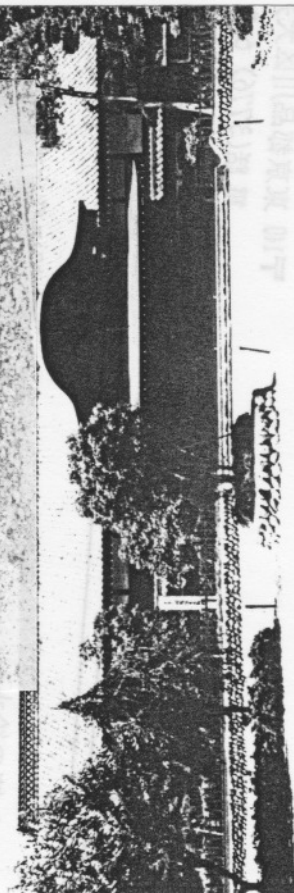
昭和五十四年十二月三日

川越市文化財保護協会

米 寿 山 七 崎 立 建

碑陰

文字なし



わらべ唄発祥の所
川越市文化財保護協会

中野